御仕置例類集

十六

食

内閣文庫
和書 類
三二六五七 號
二九 冊
一八一 函
一四 架

内閣文庫		
番號	和 32657	
冊數	29 (16)	
函號	181	66

共廿九

国立公文書館
National Archives of Japan

御仕置例類集拾六之帳

目録

○盗賊之手掛不訴出者

壱 一 無宿者安之涛盗いたし候一件

弐 一 下総無宿むさ記事も丹七

一 子年拾七盗いたし候一件

三 一 無宿者五之涛盗いたし候一件

四 一 盗いたし附火いたし仕置候一件

五 一 無宿者武兵衛盗いたし候一件

六 一 京橋無宿者吉五郎盗いたし候一件

293

七 一紀州無宿茂八盗いたし候一件

八 一信州居己村ニ而捕候無宿富次郎盗いたし候一件

九 一無宿新蔵盗いたし候一件

十 一無宿梅盗いたし候一件

十一 一無宿幸次郎盗いたし候一件

十二 一駿州無宿清八盗いたし候一件

十三 一入墨無宿久次郎盗いたし候一件

十四 一野州無宿吉弥附火いたし候一件

十五 一無宿民蔵盗并牢抜いたし候一件

十六 一野州山田町ニ而捕候盗賊無宿惣蔵盗いたし候一件

十七 一野州鹿子畑村百姓安右衛門妻きゑ盗物と乍心付預り置候一件

十八 一無宿米吉盗いたし候一件

十九 一信州釜屋村源之助倅源吉郎盗いたし候一件

○変死怪我人有之趣ニ而跡出数

廿一 一野州芳生田村ニ無宿人ニ而殺盗いたし候一件

廿二 一 人遠ニ池江突込ミ死骸ふ跡出火葬いたし候一件

廿三 一 古賄方鈴木十右衛門口論ニ而人ニ疵附候一件

廿三 一 継母変死之処押隠火葬ニ取片付候一件

廿四 一 河州加納村又右衛門儀同村伊左衛門を及殺害候一件

廿五 一 肥前国古賀村勘右衛門親一道殺害ニ及候一件

廿六 一 ○博奕ニ有之之者ニ候ニ付差置候事

廿六 一 無宿七之助盗いたし候一件

廿七 一 播州島町村ニ而隠富いたし候一件

廿八 一 当村無宿伊右衛門手目博奕いたし候一件

廿九 一 深川元町伊右衛門方ニ居候半右衛門盗并博奕いたし候一件

三十 一 当村無宿伊蔵直作盗いたし候一件

三十一 一 武州西方村百姓幸右衛門博奕いたし候一件

三十二 一 上州川井村者共博奕いたし候一件

三十三 一 武州永子村茂八博奕いたし候一件

三十四 一 越後無宿入墨久七博奕いたし候一件

三十五 一 青山下野守中間源八博奕いたし候一件

三十六 一 信州相川五郎右衛門町久次郎博奕いたし候一件

○博奕等有之無宿数

三十七 一 速水右衛門御附不ニ及不法人一件

三十八 一 二葉町文右衛門店喜右衛門養子文治棒川宿いたし候一件

三十九 一 深川海辺大工町勘四郎方ニ居候久太蒔絵紙博奕いたし候一件

四十 一 四谷伊賀町彦助店与兵衛蒔絵紙博奕いたし候一件

四十一 一 長三郎座敷借依助店忠兵衛路いたし候弟附無宿彦八悴彦次郎博奕又八盗いたし候一件

四十二 一 芝二葉町麺類杜氏無宿茂右衛門妻きよ博奕有之候一件

四十三 一 当附無宿長太郎博奕いたし候一件

四十四 一 武州松山町彦右衛門地借源太郎三笠附点者いたし候一件

四十五 一 豊嶋町壱丁目権左衛門店源左衛門紋紙指引いたし候一件

四十六 一 野州今市宿八之助博奕いたし候一件

四十七 一 中橋ニ居無宿之捕場所江立入候一件

四十八 一 橋本町四丁目惣兵衛店平七博奕いたし候一件

四十九 一 四谷長安寺門前八十次郎博奕いたし候一件

五十 一 高付無宿作兵衛手目博奕いたし候一件

五十一 一 本石町四丁目長六店平八博奕いたし候一件

五十二 一 深川熊井町吉五郎博奕いたし候一件

五十三 一 上野元黒門町重兵衛店太郎兵衛博奕いたし候一件

五十四 一 四谷天龍寺門前家主平五郎親徒左馬博奕いたし候一件

五十五 一 笹屋町五町目菱屋源七文足打源四郎子源兵衛博奕以同合いたし候一件

五十六 一 武州之鶴見村銀蔵博奕いたし候一件

五十七 一 深川無宿肴松事入墨松次博奕いたし候一件

五十八 一 深川六間堀代地町伊兵衛清方ニ居候無宿人を殺候一件

五十九 一 武州幸手宿佐右衛門後家とめ方ニ居候孫右衛門三笠附いたし候一件

六十 一 深川永代寺門前仲町文次博奕いたし候一件

六十一 一 浅草阿部川町吉五郎博奕いたし候一件

六十二 一 芝車町政右衛門方ニ居候伊之助博奕いたし候一件

六十三 一 摂州今津村真福寺住持智雄不埒之取計いたし候一件

六十四 一 日光大工町久右衛門博奕いたし候一件

六十五 一 無宿久蔵附火并盗又者博奕いたし候一件

六十六 一 武州河原井村八郎右衛門博奕いたし候一件

六十七 一 武州西方村百姓幸右衛門博奕いたし候一件

六十八 一 武州瀬郷村四郎右衛門博奕いたし候一件

六十九 一 上州新町宿庄之助呉箇博奕いたし候一件

七十一 上州熱社新田町小俣次盗いたし候一件

七十二 甲州今福新田百姓良右衛門盗いたし候一件

七十二 備中国惣爪村百姓治郎大一と唱候二似寄博奕いたし候一件

七十三 越後無宿入墨久七博奕いたし候一件

七十四 青山無宿千蔵盗いたし候一件

七十五 佐州相川五郎左衛門町久次郎博奕いたし候一件

七十六 音羽町喜左衛門店猪三郎博奕いたし候一件

○巧事取拵盗取候類

七十七 無宿藤蔵盗いたし候一件

七十八 堂島米市場外ニ而現銀商同様之売買いたし候一件

七十九 奥州長子村無宿太兵衛鉄銭取企候一件

八十 御用雇旦那前貸銀元込候一件

八十一 祠堂之仮寺ニ而無尽いたし候一件

八十二 富突同様之無尽いたし候一件

八十三 安治川南弐丁目讃州船借受候大坂江利右衛門支配船荷物之隠売拵候一件

八十四 播州東保村百姓與八縁家子木秤
売買いたし候一件

○囚人等預り之者逃去候又ハ
変事有之節不存数

八十五 下総国高谷村百姓妙高家ニ居候
矢ニ及殺害候一件

八十六 無宿者長蔵盗いたし候一件

八十七 出家ニ而不知庵物売買一件ニ而郎等
之首縊相果候一件

八十八 無宿者樽源之助相図を掛出
花牢内ニ而女を殺候一件

八十九 無宿者長柄之十右衛門牢抜いたし候一件

九十 預置候囚人逃去候一件

九十一 主人掛ケ之金銀盗去候一件

九十二 下総国古田村七右衛門を逃去候一件

九十三 請負出来積之積り違賃銀受代
請負之出来不積之一件

九十四 婚礼之節石打ニ而大勢申合
棒木打擲之一件

九十五 出家表ニ而欲庵物売買いたし
寺不埒之元斗いたし候一件

九十六 当村無宿者佐兵衛八盗いたし候一件

九十七 一 出家ニ而寺之茅道秘ニ抜候一件

九十八 一 無宿者共三郎衛儀盗いたし候一件

九十九 一 無宿民蔵盗ニ而牢抜いたし候一件

肥前国唐津呼子浦下松屋文助

百 一 初栄金銀渡之一件

元西浦賀谷戸町平助忰平六与

百一 一 弟分無宿安五郎盗いたし候一件

本所長岡町店請助店長蔵方ニ

百二 一 居候道心者善心博奕いたし候一件

○隠売女有之を不存哉

百三 一 隠売女いたし候一件

堺町組同心忰町人を切殺又ハ

百四 一 手疵為負候儀ニ而隠売女いたし候一件

百五 一 弟分無宿佐吉八盗いたし候一件

百六 一 無宿民蔵盗ニ而牢抜いたし候一件

○異法を勧候儀を不存哉

百七 一 異風成法義相勧候一件

越後国飯柳村市兵衛異法相

百八 一 待ゝ一件

安永二巳年申渡　　年三拾弐番

甲府勤番支配

一無宿者友右衛門盗いたし候一件

甲府奥町
家持
湊屋
又右衛門

右之者儀右盗取候品預り質ニ
入有之候処不訴出由說ニ而も
尤不埒ニ付過料三貫文
此度死罪ニ可成盗人之由說ニ
ニ追而右之者増過料ニ而定ニ

右之外盗人江直対談もふ
致シ首尾宜度比り
評議之上添

訖

安永七戌年伺渡　七番
火附盗賊改
土屋帯刀伺
一下総無宿もの之儀ニ付丹七
一弐拾七盗いたし候一件
下総国相馬郡井野村
名主
甚兵衛
右盗物金子差出
申候ニ元戻ニ付
同郡大鹿村
百姓
孫次兵衛

右衣類之儀ハ盗物由ニ而候ニ付
候得共質物ニ取候ハヽ右品右科
与存出候理不尽成儀ニ付其
ニ而も質物ニ可預出不申候人
候由ニ而金子為出右不
所候ニ付不埒ニ付急度叱り

一 預り置候儀ニ付者方ニ而紛失

一 物ニ成候紛失候ハヽ其品ニ付
ニ与右様之理不尽成金子文
出候而ニも其品可相ニ為償

ニ付不埒ニ付急度叱り
此儀者定書ニ盗人其外捕難物
之返由證文ニ逃候者之身人
名主叱り 但死罪可成盗人
其由證文逃去候ハヽ名主并
人被申付過料ニ可申付候
亡者死罪ニ相成盗人ニ者候
度候得共此者共ハ盗人ニ而有之
不届ニ付逃去候ハヽ其ニ
聞届候定ニ而十文ニ見合程

不正之儀申懸ケ不届ニ付
不審ニ付吟味有之人宿伺之
通之急度叱り

評議之通[illegible]

安永七戌年御渡　三拾六番
大坂町奉行
佐野備後守伺

一 茂右衛門盗いたし候一件

岡部美濃守領分
泉州瀧濱村百姓
八右衛門

盗いたし品質ニ入有之
追而紀之候ニ付
よ

右之者儀自分家入質物ニ
ろも無之候盗取之品を何れも
質諸方其者下請処無之分
同所ニ候盗之不知質入物請候

之段不埒ニ付急度𠮟り
此段ニ而盗取候品物ニ質物ニ入有
之盗人之手寄相知ら不申
請戻候不訴出段ハ有之
之段八月葉京銭雲手
限伺之上右外牢中付之但州
竹田町百姓忠助父治作儀
一ニ盗取候品之内非人番ニ而
返ー盗賊手寄相知候不
而訖ニ請取候不訴出候段不埒

ニ付急度𠮟り置之例ニ又合
伺之通急度𠮟り

評議之通

天明元丑年伺　四十壱番

大坂町奉行伺

一盗いたし附火を仕懸置候一件

万年長左衛門代官所
摂州西成郡上福島村
中津屋吉助支配借屋
播磨屋
惠介

右之者儀盗取候不届之儀有之候
有之候家ニ而内ニ忍込

冥加不年ニ候段不埒ニ付過
料三貫文
此段去ル辰年三月安藤弾正少弼
江吾方ニ罷在銀伺之上申付
申付ニ武州北野村市郎兵衛
後取さとよ候紛失いたし候
前書之趣立兵衛之通
一　右之通村役人とも不相届
記之支配ニ候不念ニ付叱り置候
例ニ見合叱り

評議之通

天明四辰年御渡 拾六番

甲府勤番支配伺

一 無宿武左衛門盗いたし候一件

栗村友三郎御代官所
甲州八代郡市川大門
村 枝々
市沢村
百姓
勝右衛門

右盗ニ不用内ニ而
無宿之ものゝ

右之もの儀土蔵ニ盗賊這入候
趣ニ外聞ニ而盗出しニ付村役

人ニ申立不訴出ル処ニ其後弥
此人預ヶ置候盗賊押置不
訴出者ニ而ハ不儀検出人を殺
内分ニ而も盗ニ而も在之候ハゝ不埒
ニ付過料銭三貫文
此後盗人を召捕雑物ニ返而
詫ニ而逃しまゝの当人
名主ニハ叱り　但死罪ニ不成盗人
を内詫ニ而逃しまゝの名主
当人ハ過料も有之定ニ

又者此もの方ニ盗入ニ盗賊ハ
死罪ニ不成ものゝ内座可伺
ニ而過料銭三貫文

評議ニ而無滞

天明五巳年[illegible]　御持三番
火附盗賊改
横田源太郎伺
一京橋[illegible]衛門店盗いたし候一件

三田臺町三丁目
平兵衛店
常吉

右盗いたし不届ニ付叱ニ
及候ものの

右之者儀[illegible]藏ニ而盗
いたし候ニ付[illegible]
[illegible]
[illegible]不届ニ付[illegible]

ハ盗ニ不成候而も仕置
〆候不埒ニ付急度叱り
此段ハ定書ニ盗人を召捕
雑物取返内証ニ而逃し候
もの当人名主叱り但死罪
ニ可成盗人を内証ニ而逃し候
ハゝ名主当人重キ過料ニ有
〆ニ不成ものハ訴盗ニ不知其儀
より内済ニ致候事を訴
も不致差置候ニ付是ニ而盗

人を逃し候ものニ准候
可叱り
評議〆通済

七

天明五巳年中渡　[illegible]五衛

火附盗賊改
横田源太郎伺

一 紀州無宿蔵八盗いたし候一件

四谷傳馬町新壱丁目
五人組持店
平七店仕
吉五郎

見世を預り居商いたし不
其御免を請途中ニて
ねしものニ遣し替ニ
御免不残受取し主人江
不申一存ニ而致し
来し候もの

右之もの儀主人平七病気ニ付
見世を預り居商いたし無宿
蔵八ニ紛御免以後を押包ニ上

茂八与連立候残し置候所其
後ニ而乱相渡し候段途中
ニ而右茂八ニ行逢候所
不知して戻し右茂八ゟ逃
し候上主人ゟも届も無之ニ
申ニ付一存ニ而相済候段
不念之至不埒ニ付急度叱り
一此段去ル巳年評議ノ上一お
申上候処作渡板倉佐渡守
殿ゟ渡候ニ付甲府勤番支配

相伺候ニ付右者盗賊一件ニ而
久保平三郎御代官甲州
巨摩郡後屋村百姓ニ付下
男幸右衛門儀同村要蔵下
男吉右衛門ニ被盗取候ニ付
主人要蔵ニ而も申出訴
候而後度々盗候ニ付
て右戻ニ付差置不申
処を相伺評議之上盗人を
召捕難相成返し同人遣

迄ニ而此ニハ御定ニ定金銀
之事ニ而為盗取候死罪ニ
成候盗人ニ而も無之ニ付何
之無此品置所申ニ付候儀
不致訳も申上候無相済
之例有之いても此味書ニ拵
之候ハ主人平七病気ニ付之
世話ニ可致旨申候段八ニ候
職方差調候中ニ付候而
表出し候事ニ而物数三品

代金ニ付右ニ相極近来仕立候
品持参仕立不及相談ニ上
ニ而調候中ニ而持出候品
不相知候御座候所右ニ付
いつし置候後途中ニ而儀
八ニ候通候所内容ニ而取扱候
銀ニ而右御座候ハ脇来ハ当
座ニかくし候ニ当分ハ当
座ニかくし置ハ身元有之
不相盗候ニ付仕置同断

相当之法定ニ見合候ハ、御
取計ニ非業死罪ニ当り候科
ニ無之候得共前書之例ニ見
合叱り

評議之通

高ひの不念加り候ニ付右
之者ハ遊参候ニ付ニ系り候
其の上作之御沙汰ニ付右
矢代金為償内ニ為取
無之候の

糀町三丁目
九郎兵衛店
平兵衛

右之者儀高ひ之不念ニ而候儀
ハニ御沙汰之上不進出致候段

申出候節ニ訴出可申処無
之候段八代ニ而六両ニ而
も同様ニ御沙汰之儀と取無六両
不償金内ニ而申立取り候不
埒ニ付償金六両可申付与
之而為下料三貫文
此儀高ひ之不念候ハ、御沙汰
候之分ハ六両も御沙汰之儀と
候得共之上ニ而六両之償金
為差出可申筋ニ無之候間

殺人ニ而も立ち候出処六助
差出ニ償金請取内分ニ而
済置ニ候始末不届ニ付
貰候上償金六助方
差戻ニ付候ニ為差戻過料
銭三貫

佐渡ニ而遣済

天明元年佐渡　御指七番

佐渡奉行伺

一佐州辰巳村ニ而召捕ニ候盗賊
次郎ハ盗いたし候一件

佐渡奉行掛り御役人

不

佐州雑太郡青野村
松之助
外口人

佐渡奉行支配所
同郡新町村
十王堂道心
浄念

右之品質不持して不致盗
其者不盗候之由申買受或ハ
質ニ置候之由相知れ候て早速
不訴出度候ハ候内ニて
其身ニ預不埒ニ付過料銭
三貫文以ハ浄家役ニ而相續不
埒ニ付三十日押込

一 此段定書ニ盗人を召捕
雑物を返内證之遂せ候之
當人名主へ申付但死罪ニ可
成盗人を内證之遂せしめ
名主當人預之料を有之
ニ度此者ハ盗人を立
對談ニ而何れも盗ニ不
を内證ニ而應仕不届ニて
ニ盗人を逃しそれより無之
候ニ付浄家ニ而是人落ニ相成

評議之無御

九

天明八申年御渡　三番

火附盗賊改
長谷川平蔵伺

一 無宿新蔵盗いたし候一件

浅草平右衛門町
源七店
清六

右盗物同人ニ有之所
戻し遣之

右之者儀養母同所ニ好身有之ニ付
新蔵義岩蔵儀見知も不相知
右五人相手取り止宿為致其
砌右盗品之前ニ相掛り三不償

入候ニ付右品々中ニ茂
手前ニ而紛出度存候儀ニ而
之事ニ御座候得共不埒
ニ付急度叱り
此段新蔵ゟ右之人止宿
為致候ニ付参会毋好身ニ而
ニ付無余儀節ニ隙所盗
一 拙者共ニ御座候ニ不埒も如何候得
可伺之通急度叱り

評議之通

十

寛政三亥年伺済　七拾六番
甲府勤番支配伺
一 無宿梅盗いたし候一件
武藤庄兵衛代官支配
甲州八代郡駒飼宿
名主
宇兵衛
右之者儀弥平次忍入質物、
盗之不知時寺家法ニ而年
古中宿之在源次請宿之節
盗物之中ゟ其ニ而手掛支配

段不埒ニ相伺候上所并右中度無
之候右源次但中内ニ相渡
支配不埒ニ不許出候旨并方
不引届不念之事急度叱り
此段天明五巳年評議ニ而下ヶ札
職之信濃守御取伺ヶ信州
辰巳村ニ而捕之無宿次郎
一件之内信州雑太郎河原
田濱諏訪町長助儀盗物ゟ八不
知ヶ候得出不知ヶ者ゟ不買所

持之吟味之上盗物之様及所
之ヶ之早速不申出処急度之儀
内々ニ買受不知ニ盗之品取返
し候不埒ニ付過料銭三貫文
ゟ相伺候之上急度叱り
ゟ中上ヶ之通相済候例有之
此者ハ買取候ニ付無之源平
次右八買取ヶ不知ハ賤請寺ゟ
盗之品ハ不知之者右源次
請之其盗物ゟ品支配役

不行ニも不訴出右縁次第ニ而ハ
渡世之不差障取斗も可有之
ニ付同村役人ニ而も無構
可有例ニ見合伺之通急度
叱り

評議之通[illegible]

十

寛政五丑年御渡　三十八番
火附盗賊改
長谷川平蔵伺
一　無宿幸次郎盗いたし候一件
松浦町
茂兵衛店
万吉
外壱人
右之者共儀駒込盗いたし候
儀八与申もの幸次郎伯父ニ
有之家迄持出し万吉借受
異ニ付少々之盗いたし候儀

心附ニ而ハ無之候とも許容致候上ハ
も可有之儀ニ付相聞候
段内分ニ而差置候段不埒ニ付
要人ハ急度叱り
右例明和八卯年御仕置
松平筑前守領分筑前国遠賀郡若
松浦庄助儀七助ニ而在所江
差出候代り家組江返不届
払賣買之儀小前之者船中
貫文ニ而前物積移上家江参りの
家督譲渡候段ニ而心附大坂迄
取締ニ可被不埒ニ付過料銭
三百文ニ而相伺評議之上伺之
通ニ申上其通相済候例
ニ見合過料銭三貫文

評議之通相済

寛政己丑年御渡　寅弐十一番
駿府町奉行
土岐主殿伺
一駿州宇布者請八盗いたし候一件
本多伯耆守領分
駿州志太郡久々培
新田
百姓
七右衛門
外
三十四人

右盗ハ不正盗賊ニ有之
前後八ヶ所致ニ付及内済
ニ而元庭ニ有の

右之者共儀去ル子七月ゟ去丑
七月迄之内不知様ニ右数綿夫

いたし候而役人ニも不相届
手付之詮議之後證拠有之ニ付
相置キ後盗賊捕置候ハヽ
ニ廣有之候手ニ入候ハヽ盗
不申候ニ付盗賊之義難成候
不限紀手ニ御座候ハヽも不相届候ハヽ
盗人同し事ニ請取候得は不埒ニ付
一過料三貫文ツヽ
此段盗人を返ス捕難相成候
家内同前ニ逃去り候ハヽ又し候

定但書ニ見合候而ハ盗賊
と立對談いたし候ハヽ盗賊ニ付
不申猶人ニ内證ニ而取戻し
ニ而無之ニ付盗人を逃し候
ニ付候ハヽ罷在候首一同七り

詮議之無滞

十三

寛政七卯年吉浜　辰五番
火附盗賊改
追入大三郎伺
一入墨之者右之者盗いたし
以一件

武州足立郡蕨宿
家主
穀屋
源之助

又逃ニ逢金子請云
内ニ而紛以其の

右之者儀久之助所逃いたし
以米売之由知りいて向ニも
訴出所年方も可有之度候ニ

候右米代金之内銀八匁八厘
皆金三分請取内ニ而残り置
候而不埒之義度ゝ有之
但銀八匁八分請取候以金子を遣
れ可為是度可申
此儀天明巳年評議之節
被成候横田源太郎火附盗賊
改ゟ差出候伺之南八町堀
壱丁目清右衛門店喜三郎
高ゟ家主名前茂八と申者
ゟ盗取候品を右甚助江可

訴出候處右之儀茂八ゟ連累
ゟ盗取置候平六と同様ニ御
之儀ゟ及承平六ゟ償金請
取候由右ニ相済候段不埒ニ付
償金平六ゟ為差戻過料
銭三貫文ゟ相伺評議之上
伺之通ゟ申上候通り申渡
之例ニ足合銀八匁八分五人
ニ請取候金子ハ総而為差
戻過料銭三貫文

評議之通

武州豊嶋郡板橋宿
百姓馬持
金八

抱馬士米五斗迄いたし
いたし取り右米代金之
内差出内済いたし
いたすの

右之もの儀抱馬士久兵衛米五
斗いたし候ニ付源兵衛中吟いたし
五斗方ニ而有之処無儀
右米代金之内金壱分南
鐐銀壱片差出し内済
置之段不埒之者急度叱り

此儀一件之内済八之見合之
料　銭三貫文

評議之通

十四

寛政七卯年御渡　評十八番

火附盗賊改

池田雅次郎伺

一野州無宿吉弥附火いたし候

一件

下野国足利郡

足利町

百姓

助次郎

盗物と内証ニ而

請戻いたし候もの

右之者儀出火之砌紛失之品

私御意無之所見いたし候向

江茂訴出候得共方も不宥し

処無之候質代金差出候ハヽ
相立候得共以後は猶更右躰之品
取扱不埒ニ付叱り
此儀は定書ニ盗人と不存盗物
取遣致候上迯去候もの当人
名主叱り但死罪ニ可成盗人
之品致候上迯去候ハヽ名主手
一　人雇ニ召抱置候ハヽ知らさるもの
ハ右盗致し不申儀ニ付取候へ
不存候節ニ而も盗人之迯し遣
此二ヶ条之儀百日過料叱り
り
評議之上済

十五

寛政十年午年閏渡　四拾壱
甲府勤番支配伺
一　無宿民蔵牢抜いたし候一件

元榊原小普請組
塩谷文右衛門御代官
所
甲州巨摩郡春
米村
百姓
利左衛門

紛失之不知入有之
明代銀差出し請
度以上

右之者儀紛失之品大師村
質屋稼ニ候方ニ有之いたし候

候支配役不致も訴出候上ニ而茂
当次郎共定所江申出候間分ニ而相
對談を以代銀差―請取候筋ニ
候不埒ニ付急度叱り
此段安永六酉年太田播磨
当時勘定奉行ニ而手限
伺之上ニ而申付武州中川
一 澤村吉右衛門方江盗人入
盗賊之手掛相知候ニ付
相糺村役人共も申吟味可
相願而内證ニ而金子差出候
失之儀数度及候段不埒ニ付
名主ハ急度叱り置以類例
之見合伺之通急度叱り

評議之通

寛政十午年六月 五十二番
山田奉行伺
一 勢州山田町ニ而召捕候盗賊無
宿常蔵盗いたし候一件

藤堂和泉守領分
勢州飯野郡
川島村
酒屋
傳蔵

自分ニ而盗物代金之
坂外ニ而盗候代金
請元置候分

右之者儀右蔵不知物ニ而盗取候
依松坂横助方ニ而預り置候品
非人吉右衛門倅常蔵外

十六

ニ盗候と不存候自分ニ而盗物
賣拂代金と心得捻出候ニ償
ひ金請取置候段不案内ニ付此り
買取請取置候代金捻出候ニ
為差戻候ものニ候盗物ハ不賣
拂代金を償候様申付候ニ付差上
相渡

一 此段當品外ニ而盗候ハヽ不知
代銀請取置候ニ付心得違
致候ニ付盗人を召捕難抱

取返し内證ニ而逃去候もの
之儀定と見合伺之上此り為
相当仕候様存請取置候
代金を捻出も不埒有之候
ニ付同人ニ而為差戻候節ハ
有之候間右代金差上
此者買取候もの盗物ハ不賣
拂代金ハ償候段申渡
取上相渡

評議之通

勢州飯高郡
松坂鉄炮町
店借
廣吉案〆

盗物應ーもーれを
不存もの

右之者儀同町権助与申盗
物之売買郷人久兵衛方数度
ニ而取并盗品と乍存送り候
同人江同人方ニ而申付候儀容易
ニ取り盗ニ候不知候由ニ而
申ニ而不帰り当料金三貫
文

此儀盗人を差押置取戻物不返
し追ーもしそのゝ宛定
ニ見合ニ而案内ニ而取戻
しきゝ而し儀ニ死罪ニ
而成盗ニも無之所ハ可被申

評議之上無徴

寛政十一未年伺候　拾六番

火附盗賊改

加役玄蕃頭

一野州麻子畑村百姓安右衛門

ゟ兼々清盗りのと居心付頭

置候一件

盗人ニ而無之候ハ不及段
盗物ニ而内證ニ而致候
ニ心得候もの

野州塩谷郡
松山村百姓

右之者儀半七方綿奉公致

了簡方ニ有之候ニ付品向之儀

出所半方も不存候ニ付ニ而

儀を不世話いたし内分ニ逃し
置候段不埒ニ付急度叱り
右儀吟味書ニ認候ハ盗物手
掛り等有之儀を糺候處右
之親類者親分方江所縁及
惣名内證ニ而取度ハ世話
いたし候者ハ御定
一書ニ盗人を召捕雑物を返
内證ニ而逃し遣し候もの叱り但
死罪ニ可成盗人を内證ニ而
逃し遣し候ハ捕手過料と
有之ニ見合ニ盗主申口ニ
而ハ〆り有之処盗ニ可
盗人ハ死罪相當いたしもの
拘り候もの盗主ニ對ハ不及
儀ニ付右御定但書相當ニ
右不及候ニ付叱り
此儀急度叱り

十八

寛政十二申年御渡 拾七号

火附盗賊改

岡部内記伺

一 無宿百姓吉盗いたし候一件

房州平郡太田

名村

組頭

吉兵衛

右之もの儀村方番非人由兵衛

儀盗賊捕押へ候盗品々

不賣之儀候得共儀も申

少々以外村役人へ不申

此子迷子之向ニても訴出不申候
ニ而も候此地面内借宅致居候
掛合之上相成又ハ村方發勤ニ付
成候儀無之候ハヽ右由緒ニ付
付之候由緒ニ而取扱賣之
聞合候義相成分ハ役引代
成ハ歳暮之名附金銀由緒
一之義ニ而盗主ニ相渡由緒
ハ之上盗賊ニ而候ハヽ
当内金ニ而敷金候村役出し

候処勘考不行届之一方
不埒ニ付急度叱り
此儀賍物ニ書之類ニ候ハヽ盗人
ニ而直ニ対し候へしものゝ
ニ而情在ニ而預り候盗物所持候ハヽ
世話いたしいたしものゝ故盗人ニ而茂
捕押候ニ逃去いたしものゝ之処定
之又言類之不宜之筈候ニ付
り急度叱り

評議之通

同村
百姓
綿四郎

右之者儀於盗ニ不相知由
ニ而由緒持参り候ニ付而向ニ
も詮議有之并方も可有之処
無之候儀右品請取内分ニ而
一置之段不埒ニ付叱り
此後盗物有之内分ニ而相済
候ニ付とも盗人と直相対ハ
不致旨度〻例之文言認候

通り叱り

評議之済

此段内訳黄之者不宜ニ付分明
迄ニ而者裁許識ニ付

享和二戌年佐渡　六番

佐渡奉行伺

一佐州釜屋村源五郎悴源太郎
盗いたし候一件

佐州雑太郡北片辺村
百姓　又右衛門
外　拾人

野飼之牛ヲ盗候
之内訳ニ而者庚之儀ハ
有之

一右牛買方雑費
としてハ御定候者

右之者共儀野飼之牛盗取
致し候ニ付役所ニ而屋置追而見

十九

弟ニ其吟味ニ及可新出處
無ニ付買先ヲ聞合内分ニテ
牛取戻し候不埒ニ付過料
三貫文以上又七儀ハ牛尋方
難成として源太郎へ代銭三
貫文請取候段是又不埒ニ付
右銭三貫文ハ取上三十日手鎖
此儀野飼之牛ヲ盗取候處
其し壹貫之代ニ紀ヲ相立源
太郎へ賣渡シ候中其牛盗

取候も同人仕業ニ紛無之
趣可訴出処猶も無之内談ニテ
牛取戻候儀ニいたし置
候ものニ有之盗人を召捕雑
物取返し内済ニ致候もの
当人名主江申聞但死罪ニ可成
盗人を内済ニテ逃し候て
名主当人怪我過料ニ有之
此ものハ盗人を召捕雑物
取返し内済ニテ逃し候以

身ニハ負之ヲ懸ル由ニ而牛
取戻シ候ニ付シ置ヲモ
大法定 於天明五巳年評議
被ニ付ニも人命ニ比リテハ軽キ
而仕ヲ候ル盗ニ付解ク後ニ忘
却ニ付キ不埒も有ル也テ
御定 但書ニ人命又ハ損甚
於候程ニ付源七郎 源六郎在所
ニ而清兵衛夫右出ル右而
次郎ハ伺シ過之料銭三

貫文ツヽ久七銭之味書ニ縦
二百文 野飼ニ牛并盗取ル
始末ハ前書文言添外九人ニ
身ニ付同様ニ候ニ付九郎太
郎ニ而ハ遠慮ニ及ビ費用ニ付扱
新助同人盗品ニ付書付ニ而
形ニ付候ニ付此身之中ニ付候而
上ニ牛壱方ニ付雑費も相掛り
銭ニ而有ニ右入用為償銭三
貫文ツヽ相渡候書付差出候

右用捨いたし置候様源太夫
寺社御役人ニ附并ハ勿論御
三貫文内證ニ而請取候ニ
付右始末ハ前書又ゟ伺
外九人ゟ不宜ニ付伺之通
相持之御三貫文取上三十日
手鎖

評議之通

變死怪我人有之迄
不許出訴

天明三卯年御渡　拾壱冊

日光奉行伺

一野州苅生田村庄蔵人を殺
盗取いたし候一件

日光御領
下野国河内郡大宮村
百姓
平太郎
外四人

用水堀ニ死骸有之
候を墓所へ大堀ニ
致し候を以罪を遁ル
訴出候置候もの

右之もの共儀去ル亥年七月
六日用水堀之内ニ死骸有之
候段同村百姓久左衛門見知り

ニ付右人〻ゟ申合死骸見届

候処日数立候故死骸ニ付墓

所ゟ犬掘出シ候ニ付怪敷儀

之有候ニ付心付大堀川端に

埋置候段申ニ付右仮令墓所

ゟ大掘出シ候儀ニ有之候共右之

年寄共も不埒申達目代役

而已相済可申訳無之候ニ付候儀

一 五人申合死骸取隠候儀全

相隠候儀不埒ニ付過料三

貫文ツヽ

此儀右定書ニ変死之者有之

候ハヽ隠置不届出之店

借地借家之過料五貫文

五人組之過料三貫文名主役

儀取上之過料五貫文と有之

候而吟味書ニ載候ニ付日数相

立候死骸を引上埋置不届

不訴出百姓共ニ隠候段之ハ

不届ニ付右ニ付役村役人迄

十四ヶ年ニ有之、不埒至方ニ付
庄屋ゟ百一同急度叱り

書留焼失

同村
名主　五右衛門
年寄　平右衛門

用水堀ニ有之候死骸を
犬堀出し候を心付候
段相届候ニ付叱り
置候もの也

右之者共儀、去ル亥年七月廿日
致他出、同月十一日庄屋知同村
百姓平右衛門・十次郎・久次郎・太郎

右五郎右衛門申出候ハ、同月六
日頭名沢用水堀ニ而死骸
有之候ニ付見届候処、目数相
相子ニ而面躰も見知不相分死
骸ニ付、墓所江犬堀出シ候儀と
存、大堀川端ニ埋置候段相
届候ニ付、右死骸之儀初同所ニ而
取片付候段不埒之儀ニ候得共
其旨申立候段ニ相成候方
之儀と相心得候ニ付段置候

暇中の旅於之人ゟりの於店
ゟ入早速相紀月代役不知
所中出席否年之錢金銭一回
相隠し候上村役不相届候所
叶不埒ニ付名主え
過料三拾貫文ずつ年寄
右無銭も急度叱り
此儀は定書ニ有之死罪手鎖
ゟりの隠置不許出入店
借地借家共過料五貫文

五人組過料三貫文名主役銭
所上過料五貫文ともこ
見合用水堀ニ而見当り死
骸を引上埋置候旨相放過
ニ付百姓其外村中ゟ訴ヘ度
不訴出候不埒ニ付名主以
隠置候旨ニ付不届ニ付店
請人惣し名主之過料相過
貫文年寄八同三貫文

書面焼失

二十一

寛政元酉年伺　三拾五番
大坂町奉行伺
一人違ニ而池江突落し死骸不
相出火葬ニいたし候一件

角倉与一御代官所
牧野備後守領分
入組
河州石川郡山田村
庄屋　伊右衛門
外　壱人
年寄　孫兵衛

溺死いたし候ものゝ
右念之積ニ而引
渡不許出役人

右之もの同村内溜池ニ而溺

死いたし候ニ付源七死骸親丁右衛
役才与左衛門兄座狐狸ニ付
業ニ致候ニ付死骸引取候
候中ニ而変死ニ候ニ付其内
迄ニも訴出候処ニ丈夫ニ申度
其丁右衛門与左衛門儀死骸
早く葬送致し候旨申ニ付逆
扱合之姿ニ而縁由他之死骸
一付渡之候寺不埒ニ候間中
不埒ニ付過料三貫文宛

評議之通

同村
百姓
吉右衛門

右ハ其儀縦令丁右衛門与左衛門
門死骸引取候旨申ニ付其変死
之事ニ付而ハ御並ニも訴出候
処其儀ニ相従候心附不申処
無手段丁右衛門与左衛門任申内
証之死骸引渡候儀無念ニ

始末不行届取計不埒之至ニ
度此
此段不行届不念之至ニ付茂
何ニ無念度此
評議之通
同郡大塚村
庄屋
平右衛門
右之者儀山田村百姓源七池ニ
而溺死致候処御呆
候旨宮初下知請中守ハ々様子
承糺検死體を改見ノ上領主
一役所ニ訴出差図受可申処不
参中儀死體取片付候段不直
吟味之上源助仕業ニ以上ハ其
時も宮初之取計不行届
不念之至ニ度此
此段不念之至ニ庄屋百姓之
何ニ無念度此
評議之通

二十二

寛政三亥年清派　十四番

町奉行
初鹿野河内守伺

一清賄方鈴木十右衛門口論ニて人ニ疵附候一件

小石川伝通院前表町
当人
佐次右衛門
月行事
次右衛門
名主
平吉

右之者儀町内往還ニて加藤

茂右衛門病死ニ付療
治手当いたし候処茂右衛門
組之者共ニ而病躰見届候
中ゟ右訴出其以来不
念ニ候組頭共も町内懸
而違ニ相成候ニ付難題止ニ逆
相対ニ而病人を引取ニ付依
次右衛門儀も内々ニ而引取候段
附之儀ニ付相無之九月初
支度之所持ニ相成ニ付候

置候段一向不埒ニ付依次右衛門儀
其外之者度〻叱り次右衛門儀ハ過料
三貫文茂右衛門儀ハ過料五貫
文
此儀不念之儀ニ付初鹿野
河内守法外置所ニ而上ル例
相守ニ付伺之通佐次右衛門ハ急
度叱り次右衛門者月行事ニ
付過料三貫文茂右衛門
八名主之儀ニ付過料五貫文

評議ニ不及

寛政五丑年伺済　三冊

大坂町奉行伺

一　継母変死之押隠火葬ニ取計候付之一件

佐坂清兵衛組
播州揖西郡新野
村
庄屋
義十郎

右之もの儀かつ祢病死之段致
恵分中守之旨も葬式之用意
未世話いたし候得共変死之趣
風聞有之ニ付子細致吟味

領主役所ニ而詐検使請候
而致弁候ニ付処世間ニ而沙汰
而已之気ニ而毒ニ在驚開ニ候
迄ニ取計候役所勤ニ而不都合ニ付
別而有之万一候儀不埒ニ付過
料三貫文

此儀変死ニ而手負ニ有之を隠
置不詐出ニおゐてハ名主役
取上ヶ過料五貫文も有之御定
ニ死人ニ而殺ニ有之を隠置

ハゝ不遠自滅いたし有之由ニ而
ニ詐出有之ニ付名主等右御定
分取計候ニ付過料銭三
卅貫文

評議之通

同人領分
同郡二塚村
医師
元良

右之もの儀加療変死之儀

有之既咽喉之疵不及見候上
ハ自害ニ相違も無之様子ニ相
聞候處數患出来候様ニ相聞候得とも
變死を押隠し候段同人ハ致
方も有之候同人儀恭了候ニ付
相済候者共申密ニ葬置候段
納候病死ニ申偽取斗候付候世
話仕候段不埒之事不埒ニ付
三十日押込
此儀一件ニ相恭了ニ見合不

猶く此度可急度叱り

評議之通

同郡那波野村
百姓
佐吉

右之者儀加禄変死いたし
候妻細ニ取斗死躰ニ疵無之も
及見ゆ上ハ仮令自滅之儀ニ候とも
も有之候ニ付所ニ而訴検
使をも請可申所内分ニ取斗候敷

惠恭ニ而も心を附不申処外
少も厭ひ病死と偽火葬ニ
取計ひ剰詮議之上ニ而始末不
埒之仕方不届ニ付
其段加祢親次郎太夫ハ叱り
を相伺振ヶ段も無之候
右同様叱り

評議之通

寛政六寅年伺済　七十一番

御勘定奉行
松平紀伊守伺

一河州加納村又右衛門儀同村佐右衛門悪口及殺害候一件

岩佐郷右衛門代官所
河州若江郡加納村
庄屋
又右衛門

右又右衛門儀大坂表ニ而詮議ニ付
其外之者ハ始末之上吟味之
儀佐右衛門ハ嫌ニ而陸を被同様

二十四

中又右衛門立寄ニ而伊右衛門も同
所迄一ト緒ニ参候相尋候処
途中ニ而後走リ之内待伏致し居
ニ出会口論之上打擲ニ及候而
疵受ケ候相成候て不相遁中
出処伊右衛門変死ニ付不相遁相
知ニ付而ハ又右衛門儀疑敷旨請候
外ニ知レ候上捨置呉候様ニ付又右
衛門相頼追外村役人ニも不及
相談之通リ内々ニ而捨置翌日為
知其以上ニ而外村役人江及事達
之始末ニ而其段相勤可申
不埒ニ付過料銭五貫文
出候段吟味書ニ付又右衛門
立寄外ニ知レ候ニ付而捨置
呉候様相頼候ニ付十二日明七
ツ時頃ニ而候処同日四ツ時
頃為知其上外村役人江届
有之候処遂時代官江も訴
出吟味ニ付尤も初又右衛

立寄候節ニ疑懸候得とも考合
疑敷候得共右清四郎
同村中之者共吟味
仕又は清及白状之證拠無同
人と馴合隠置候儀ニも無之
し、旨変死しめ之隠置
不埒出名主ニ付定候處
候ても不慥ニ付重年評議之
被下ケ成ニ京都所司代
相伺候伊州田井村庄屋与右
衛門儀伯父作右衛門村方之者
ニ致殺候身伯父儀仮令疵
負ひ候共清右衛門三右衛門江
十分回復之上扱ヲ請候
し置実初其段役人尋し
節有体申立候ニ付吟味相
願候ハ在中村方一同相糺し
節病死之旨申偽之候處
候段不相済之段者清置
候し一方不届ニ而近

何れ構惜遊致ニ相伺候
証銭ニ上ヶ置料銭五貫文
ニ而上ヶ置相済候ニ付例
ニ人分伺之通上ヶ置料銭五
貫文

評議之通

享和元酉年六月伺　三拾壹
長崎奉行伺
一肥前国古賀村勘左衛門親一道
殺害ニ逢候一件

高木作右衛門御代官所
肥前国古賀村
佐右衛門
外壹人

右之もの共儀十二年以前戌年
同村紋左衛門一道殺害ニ逢候
其節駈付候上ニ而擬を致
し候処右科不埒儀之旨相聞候

二十五

相済候儀取計候ハヽ早速可訴
出處無之ニ付候得共不埒ニ付過料
錢三貫文可申付就ニ而者差出候
数日入牢申付結し度沙汰
此儀人を殺候儀同様ニ而取扱
不済候もの無之候ハヽ存之候
取り不訴出候不届之上ニ付急度
或此ハ置可申処六十日以上入
牢申付為人共結し之及沙汰

評議之上相済

同村
元年寄
又左衛門

右之もの儀十二年以前戌年村役
勤中同村役差添ニ一通殺害之
道ニ付而早速可訴出處無之候
取候而申見並之取計候儀
ニ付而不届候儀者不埒之儀ニ而
相済候村役之儀無之不届
之付不構
此儀村役人ニ而ハ不埒人

殺一件も内證ニて扱候由
ニ付人殺を内扱ひ候もの其内
證ニて相済殺候ものも立
退き候上ハ不申出候
候ハヽ名主中追放組頭所
掛りハ追放ニ不宜候間一
等軽く組頭ハ役所江戸
掛ニ其事可申付候此外其品
ニ不掛ハ江戸掛ニ其事ニ方
何ニ而も不掛

評議ニ而相済

同村
年寄
忠蔵

右ハ其役十三年以前弐年
同村役名儀ニ而一通教諭ニ而も
役所江出し早速可仕出入
年々役内ニ而相済候處
中ニ而遠慮ニ而申付し置候
所村役之儀并ニ相勤候付正科

銭五貫文
此段村役人共申合不埒之
殺一件を内済ニ取扱候もの
之人殺を取扱候もの共
内済ニ致殺候ものを見逃
遁候段ニ而ハ不埒ニ付為
〆ハ名主ハ中追放組頭ハ
拂之定組頭ニ見合ハ
拂方第一之もの之内居屋
高表之不拂出候表ニ而
居村拂ニおゐて其所居村
拂

評議之上済

同村与平治の
一道 組合
伝右衛門
外 壱人
利右衛門 組合
勝右衛門
外 壱人
右之者享保十二年以前戌年

同村組合利右衛門倅紋右衛門
一通殺害いたし候処ニ而
逃去行衛知れず候ニ付相尋
村役人并村役人共不埒
候ニ付内々ニ而相済候段不埒ニ付過
料銭三貫文
此儀安永四未年太田摂津
守殿勤役之節勤役ニ而
伺之上御指図有之候例也
井村清次郎儀ハ主殺ニ付
殺ニ相成候段全子共内証ニ而
子ニ而候段不埒ニ付過料銭
三貫文申付候例ニ見合伺
之通過料銭三貫文

評議之通ニ候

博奕等有之趣ニ候ニ異見
以来

二十六

安永八亥年御渡 子新番
山田奉行伺
一 無宿七之助盗いたし候一件
神領 宮村
百姓 安右衛門

博奕之儀

右之もの儀農業ニ出候留守ニ七
之助依頼諸外之人集り博
奕いたし居候を不存候得共
留守ニ付小博奕之為致候ニ相
背候盗物を不存預り候儀出

不存不知取ニ而捌方を致候
謀計いたし候段者不埒ニ付過
料三メ文
此段之趣書面ニ而ハ家内
農業致出精候ニ付致候
家七ニ而御法度之外ニ知人
ニ而是以ものを人増変候とも
取立年貢并法度被付候
他見通し候ニ致候ニ付
對し上増奕ニ相成候

二八無之盗物とも不存候とも
外質入いたし候而売捌候
世話致世話其上致候ニ而御咎
ニ節如何様ニもいたし候
盗品買取候と致中ニ而者
之為売捌又ハ質入いたし候
いたし候とハ无年来不念
又ハ不行届いたし方ニ付
差支候度ニ不束ニ付
当例之趣ニ付而相成候ニ付昔

但シ無之料銭三貫文

評議ニ無之様

天明四辰年御渡 三番

大坂町奉行伺

一 播州多町村之隠冨ニ而一件

同年十月右伺書ニ

御下知

播州美嚢郡多

町村

百姓

五郎兵衛

外 壱人

隠冨ゟ一ゟ落地代

銀を村役人共立ゟ

不致銀村入用不致

候様之事

右之者隠冨実無之候

筋ニ解様ニ有之処不届之

之者ニ而差置地代銀村
方入用ニ相遣候段不埒ニ付
可為過怠 叱り
此儀村役人共申合候ニ而取計候得ハ
身分ニ取計候段不念至極ニ付
候間過料ニ不及可為過怠 叱り
評議之通
一惣百姓取計之上ニ而候処年寄共
不届候ニ付取扱不相納之儀ニ付
其外ニ而置候取扱等宗旨之上
ニ付一同叱り
此儀等承知候様ニ而候得共
同様之事 叱り
評議之通

二十八

寛政六寅年御渡四拾壱番

火附盗賊改

長谷川平蔵伺

一常州無宿伝之清自博奕

いたし候一件

常陸国新治郡

某村

年寄

丈右衛門方

十郎右衛門

外壱人

博奕いたし候ニ而無之

見請候処ニ而

右之者共儀酒食致候所越

之相伝之清外弐人之者共

ちやうちんいたし候ニ付酒ニ紛
酔候上後難を恐手合之者
かくし申候ハゝ追而露顕
いたし候時ハ心得違之者有之
処無之候処十分之内為引取候ハゝ其之
之段を以相対ニ而其旨可相済
有之場所ニ而相果候段不埒ニ付
一 当人者急度叱り
右之段去巳年評議之上申合
成候とも右合川年寄共相伺候

例粕類塩肴類ハ籠屋家主取
候趣吉兵衛組肴小屋ニ而
ハ籠楷責有之候処手余カく
之儀ハ無之候処申之ニ付内談
致し始末見違之上不束
之向之も計出当年方も可
有之処無之相成不埒之旨
度叱りと相伺評議之上相
之通と申上候通相済
例之通答伺之通急度叱り

評議ニ無之

寛政七卯年御渡　評格五冊

火附盗賊改

長谷川平蔵伺

一深川元町伴之清方ニ居候者

清盗品物売払候一件

深川常盤町

長四郎店

船持

喜右衛門

船中ニ而特賣いたし
候ニ付伴之かし置
候もの

右之者儀船賃を以船中
相伴り特賣いたし候ハ始末之
更ニ而心附方も有之処重々

候不埒ニ付急度叱り

此儀去ル寅年道中奉行並

伺之上清倍中村々外道中

織ヶ谷宿之内大津町百姓善

八呉六子甚兵衛次第博奕三笠

附いろ〳〵之儀ハ今之場所九善

八儀毎月市日之節ニ居宅裏

一 小屋貸ニ而商人并馬士

共を集博奕打候ニ付今之

身の持方ニ而座料をも取之者

一

在不届之段不念ニ付急度

叱り置候之又合伺之通急

度叱り

評儀之通

三十

寛政十一未年御渡　永拾五番

火附盗賊改

池田雅楽頭伺

一出火付差置候者並作盗いたし候一件

神田紺屋町弐丁目

横町

清兵衛店

宇右衛門叔

宇次

情実いたし候ニ付之

文政五午年

右之者儀三郎方ニ而めしつ

情実有之候ニ付詮議之上

かり之儀ニ者曽而無之由申之
候得共右新特異申候ハ始
末見定候ニ心附方も不有之趣
無之儀見定候段不埒ニ付
急度叱り
此儀去年五月松岸組荒ニ
以御勘定奉行ニ而者手限伺
一 上清御代官附ニ而武州戸塚村
百姓五兵衛悴乙松外壱人
儀地頭村源兵衛宅ニ而めし
つかし候節多人数ニ而不加り
候処一同源兵衛方ニ而酒盛
いたし候ニ付相催ニ右之品等ニ
心附も無之ニ付構ニ居候段
不束ニ付急度叱り置候得共
見合伺之通急度叱り
評議之通

寛政十一未年御渡古控九番

火附盗賊改

池田雅次郎伺

一武州西方村百姓幸右衛門悴

盗いたし候一件

松平大和守領分

武州入間郡

同村百姓

久次郎悴

幸吉

盗ニ取候品帰候

候ニ付正当人差出ス不

加見請候申ケ間敷

右之者儀三平留守宅ニ忍入

其外衣類并縮着類盗取候

一々ハ不念度無之申如何之事
致手合ニ不加り取中ニ付其段更
殊更ニ候不埒ニ付ニ不念度叱り
此段不念ニ追而役ニ付伺之通
不念度叱り

評議之通

寛政十一未年六月　七拾弐番
大阪盗賊改
池田筑後守伺
一上州川井村太四郎悴實之
〻〻一件

小普請組
溝口摂津守支配
吉良巳之助知行
武州児玉郡田中村
百姓
宇之助
松平大和守領分
上州那波郡
玉村宿下新田
孫亀蔵

悴實之一〻
至又之加り〻ニ
評議之通

右書付之通

繁吉

右之者共儀八郎右衛門宅ニ而
賊之為御仕置賭博有之趣ニ付見受候
左手合之者ニ加り不申候得共申聞
候ニ付右博奕有之段相知候ニ付
何れも詮出所奉行方ニも申有之処
各々之儀見捨置候段不埒ニ付
諸之通急度申付度叱り

一此度之儀ニ付壬年曲渕甲斐守
殿勘定奉行之砌其支配限伺之

上方者共ニ付野州那須新
田村七兵衛右衛門外三人手
合ニ而博奕いたし候段不届
ニ而又兵衛ハ同村ニ而も後ニ
然右様之村役人ニ而も不申
出候分ニ付ニ而も置候段不届
ニ付叱り置候例ニ見合伺之
通之者急度叱り

評議之通

寛政十一未年六月　七拾五番

火附盗賊改

岡部内記伺

一武州水子村茂八博奕いたし候一件

武州足立郡

下戸田村

百姓

和家

金五郎

博奕有之候趣ニ而

又之ニ付出候もの

右之もの儀河岸ニ繋置候和

船ニ而和家ニ而他所之もの共打集

メ以賽博奕いたしいたし候ニ付其向

三十三

候とも訴出不申候ニ付此段申含候ニ
如何可申付哉之旨伺候処
候不届ニ付三十日手鎖
此段寅十月評議之上取下ケ成
〃池田雅楽頭申上ル武州児
玉郡田中村百姓与惣外壱人
儀八郎与申者宅ニ而鎌ニ而切
一右情実有之ニ付見定可有之事
合之者加り可申旨申渡
得共右科情実有之ニ付

何れも訴出不申方ニ有
之段急度被仰見定不届ニ
候不届ニ付急度叱り相
伺評議之上伺之通申上
之例之通急度叱り

此方三十日手鎖

享和元酉年御渡　弐拾四番

火附盗賊改

池田雅次郎組

一 鉄淺金者入墨久七借売いたし候一件

大貫次右衛門御代官所

東海道戸塚宿

吉田町百姓

安右衛門

村役人共宅ニ而博奕いたし候ニ付召不正之所出入

右之者儀十右衛門宅ニ而鉄之処人集博奕いたし候ニ付

三十四

見定所迄手合ニて加り不申し

旨申し候得共右科増責可

之候得共見定よりて心附方も

可有之不届ニ付見定迄

之儀不埒ニ付急度叱り

此儀去ル未年評議之上ニ而下ケ

札ニ而池田勝次郎火附盗

一賊改ゟ差出候武州田中

村宗左衛門外壱人儀八郎右

衛門宅ニ而盗賊増責有之時

迄見定手合ニて加り不申ニは候得

共之程ゟ右科増責有之

候ニ付甚内郎出所并方も

可有之処乍知手前見定迄

之儀不埒ニ付急度叱り

之札ニ而評議之上伺之通ニて

申上候処伺之通ニ而宜伺之通

成叱り

評議之通

享和元酉年御渡　六拾壱番

火附盗賊改

岡部内記組

一、青山下野守中間源八悴亥い

[illegible]以一件

南本所天徳院門前

喜次郎店

徳兵衛

めらて有之場ん差

商ひ致し候もの

右之もの儀源次郎方ニ而めらて

悴亥有之御手合ニ加り候ハ

無之候処右神之儀又文

〳〵て手間ニも可申出候条

三十五

儀者法度之儀ニ無之候得共菓子
商ひ之者ヘ進上場所ニ而見立候
者ニ取不埒ニ付急度叱り
此儀ハ帳書ニ記有之菓子
商ひニ参り候者三人慥成
者ニ而一居ニ而高ひ之者ニ懸ヶ右
場所ニ而取立候者ニハ慥成
一場所ニ而高ひ之者ニ懸ヶ取扱候者
之者無之候ハ右一件ニ付無差支
外之人例ニ申上候趣ニ而外
之人ニ見合相ニ急度叱
り

評議之通済

享和二戌年伺　拾八番

佐渡奉行伺

一佐州相川五郎左衛門町久治郎

悴寅[illegible]ニ而一件

佐州雑太郡上矢馳村

百姓　浅助

心易[illegible]ニ者[illegible]

ニ付[illegible]奇特[illegible]

ニ而見定[illegible]出来

右之者儀忠孝之道[illegible]

清領年々心易[illegible]

其外[illegible]

右三人之者共ニ博奕打候
得共浅次郎ハ加り不申候ニ付
も若輩ニ而御法度之儀を
心得候旅人ニ候ハ盗賊之心
得ニ而候由申候ニ付博奕打
之者共ハ重キ儀ニ付過料可
被申付候得共不届者ニ付

一　設

此儀寛永年中御役ニ而下ケ
苦茂成候池田新次郎火附盗
賊改ニ而被相伺候武州砂村
之者儀三年以前宅ニ置
候他所之者ニ而盗賊博奕
いたしかくし置候儀ニ付
中追放ニ而可然哉之旨相伺
不申候処又候者共ニ而不
博奕ニ付御法度ニ付相伺候
儀ニ付上伺之通中追放ニ候
是者御法度也

評議之通

惣変等有之を不存哉

天明七未年正月　申三拾御申書
京都町奉行
山崎大隅守
一　米遣水右衛門尉取ゝニて及迷惑
以一件

本屋町三条上ル町
伏見屋市兵衛借家
庄兵衛家代
伏見屋利兵衛

伏見屋兵衛より特変
より一一以上ニ右衛
之

右之者儀米遣水右衛門尉ニ付
右丹波屋の手ゟ申ニ而上田
屋茂八請人ニ而伏見屋市兵衛

庄兵衛を以申立候は家主右
忠蔵方下女ニ而右忠蔵義右庄
兵衛ニ而去未七月以来彼是之人
集増を以此上ニ而上方人も
八ツ時ハ上田屋ニ而より方并子ニ
公人ニ而町名前之もの三名
ニ相願不届ニ付咎之上家主
入ニ申付候処右庄兵衛ニ以（本ノマヽ）
ハ右御取調之上得と相
孔方中取糺候段等閑ニ付

形不届ニ付三ヶ月日数十五日押
込

此段述右忠蔵儀取計兼候
市之丞儀右庄兵衛借受之証文証
ニ相聞候書ニ市之丞取糺ニ候
右之者右庄兵衛を以之儀ニ付
行文所并市之丞も不届
候ニ付中通り候家主ニ相立
其庄兵衛義右市之丞ニ
相対ニ而以之不相分候上

右座之儀ハ市之緒仕居續候
処又ハ陽座ニ執リ候も相分
リ不申候儀雜作百姓ニ
上大隅守ニ無念相紀ニ成
都之者家主他取ニ取出シ有
ハ家代と唱候ハ市之緒抱
隣座之内座座家業儀之儀
之ニ付請負之者之外ニ而右
市之緒ニ不相在之都ハ都
右之家代を呼申し候得共

不家ニ有之候ニ付家代ニ結
中付之京都町奉行様
之市之緒ニハ河原町四条上
ル丁之住居仕候右抱座
座之陽座ニ相成候右馬尉ニ
座座業之儀業右座座業
之右馬尉相改候儀ニも
不相成市之緒中之候大
陽守中ハ右市之緒之結
結シ沙汰ニ不及此儀ハ付

且世話いたし候ものも申合候而相
〆借請候者之ものへ貸渡し
可致旨紀方不行届之者
共ニ過料急度叱人参掛
候者いたし候者ハ急度叱申付
不届ニ付候者ハ勿論大隅守
中より取計貸渡候者ニ掛
候儀ハ致遣不届不届急度ニ
家代吉野屋傳兵衛十貫
押込申付候ものニ付過料
同様之内損ハ取計申度筋ニ
掛候者共之ものへ渡し定之条
之省ニ取計方之儀座候間
右役人共之例ニ茂相當申候間
取計候ものハ掛候者いたし候而者
不届ニ付過料ニ而も可申付候
取貸遣し候共紀方不行
届候も有之一通りニ而ハ急度
申ハ不宜ニ付過料銭
三貫文

評議之趣

同町
年寄
久兵衛
五人組
市左衛門
外
壱人

町内借屋者ニ
博奕いたし候者
借屋ニ致し候之
人ハ奉公人ニ有之
知らず町役人

右之者儀町内伏見屋市
右衛門借屋丹波屋の名
前ニ而上田屋藤八請人ニ立
右衛門借屋ニ当未七月以来
右庄兵衛と申人集博奕いたし

し候ニ付右藤八儀も上田屋ミ
よせ内済ニ候而奉公人ニ町名前し
めるニ付借家ニ請宿ニて為吟味
し上家主驚入候ニ付手段ニ付
町役も若キ者共出会候ニ付不
行届之儀有之ニ付奉行所
江被一同ニ申付年
寄久兵衛ニ過料銭三貫
文五人組市左衛門ニ同
三貫文以上

去ル壬子年評定所一座伺之
上以書付ヲ駿州庵原一色村
名主組頭五人組百姓共儀
村内之帳簿有之候ハヽ不存
候儀ハ村役人共為書申付方
等閑ニ取計記不申儀ニ付
五人組百姓共も申合不行届
不束ニ付名主ハ過料銭五貫
文組頭共五人組者過料三貫
文ツヽ百姓共ハ村高ニ応シ

過料十貫ツヽ例之又合大隅守
申上候例も同様ニ顕之候
処ハ方伺之通相済候得ハ過
料銭五貫文宛庵原郡
高ニ応三貫文ツヽ

評議之通

寛政三亥年四月　二十番

火附盗賊改

長谷川平蔵伺

一二条町文左衛門店嘉兵衛孝子

文次拵引当りいたし候一件

二条町文左衛門店

五番組人宿

嘉右衛門

嘉兵衛孝子之儀

定候とて拵引候義

有之段〻在之候者之

右之者儀文次ニ養父宗樹並

他出致し御三沢頃手被備

備え候もし候段当背致

三十八

紙指引増減有之候処当局
中之儀ニ不及申出ニ付申付方
も可有之候得共是迄既定賃
之増減相改候不届
之付不埒
此儀家主ハ之申付方不行
届在店家主文次第此上ハ
一 当局定之増減之者有之
之始末ハ家主共店子江之
申付不行届之同様之致し

候得家主江之候得定之定
家主之過料之上百日
手鎖
但役紙指引ハ三笠附之候定
之候仕置評議相当ニ可有

評議之通済

三十九

寛政三亥年申渡　二十五番

火附盗賊改
長谷川平蔵伺

一深川海辺大工町勘四郎方ニ
居候君蔵儀紙帳盗取候
一件

本所松井町壱丁目
家主茂右衛門組合
同所林町壱丁目
八町家主惣代
五郎兵衛

惣要者ニ家主
惣代

右之者儀茂右衛門店吉兵衛
長五郎方ニ去戌六月中申渡

度相背候族増長いたし者共ニ
ニ而他町ニ而住居いたし候ハゝ申
右科ニ付家主組合之地面内ニ
有之候ハゝ住居いたし候無代
も相勤候ニ付右心得方も不行
届段方来熟候ニ付而者
段候ニ付而上之無之事
料
此段本所松井町壱丁目地面
ニ付候ハ享保年中ゟ山王祭

礼助成地ニ相渡去ル巳年ゟ
同所松井町壱丁目弐丁目
同所弁天門前徳屋敷林
町壱丁目三丁目四丁目五丁目
右八町ニ而家主ゟ差出候
右家主共ゟ内地代相勤候
別段ニ中上外八丁ニ而家主共
清路ニ付候ハ不相用候付平常
相勤候所右ニ付同所弁天門
前徳屋敷家主共ゟ差

外四拾人ニ而中之ニ而店入候
右之儀ハ兼而地之由ニ而致候
借家之者ニ而候得共不届
御座候ニ付此度中之方寺宗
右之儀不埒ニ付去ル酉年評
議之上下ケ渡成候山村信濃守
町奉行之節相伺浅草
此馬道請八店共三ヶ所南
馬場新町ニ而借請家作
仕候処右借地ニ家守為致
置候処店子共儀も諸方ニ而売申
正月上旬より同六月晦日迄之
法度相背三ヶ所附同様之
引渡候者有之候ニ付
御座候ニ付中ニ付方未熟故右
儀ニ而御座候不埒ニ付五ヶ
年之内建家取上ケ申付
候ニ付相伺候ニ付取上ケ之
料ニ而中上甚迷惑ニ相成候ニ付
願之見合せ之儀ハ金借受

家作ニ而いたし候ハ地面之遠山
王子之礼助成地引之支世話
いたし候ニ付不埒之儀
有物貰者いたし候ニ付召捕
つき五郎を女人之由家主茂太
儀之除無代ニ而差科之宣
りも節も之故在有所申立
五郎右儀外三拾九人過料
銭拾貫文ツゝ申付以落着致
方入金之組店八町之家主

其一同ニ而申渡

評議之無之

本石松井町壱丁目
家主茂右衛門
組合
吉郎右衛門

物貰者之家主
組合之もの

右之もの儀茂右衛門店吉右衛門
并五郎方ニ去戌六月中宿致
相貸置候処物貰者いたし候
之処も不存ニ而店貸置候申
合ニ而組合致方未熟之儀ニ付

増之分并上ニ差出し候之料
此儀御定書ニ三ヶ條附箱増
変并箱取退候者并箱番隣
家五人組并上ニ差出し候之料
同町内家主并之料三貫文
宛向側小路ニ差出し候之料ニ
有之もの者紋紙増変ニ
箱ニいたし候もの者組合ニ
八条ニ而増変箱ニいたし
候者之儀者右之家主ニ
五人組ニ而者家主人等不及
沙汰

評議之通

寛政三亥年御渡　五十三番
火附盗賊改
松平左金吾伺
一四ッ谷伝馬町茂助店安兵衛儀
紙帳賣いたし候一件

四ッ谷伝馬町
茂助店
安兵衛養子
まつ夫
茂八
外三人

女房ニ致紙ニ賣
子ハさしいたし不在之

右之者儀路ニ妻ニ而安兵衛
二代之妻紋附紙請取而ニ持

四十

歩行隋之者賭銭百文并拾文
以下ハ一銭無差別其外徒用所ニ候
手足眼病腫物ニ而相好ニ振候
妻ニ香花京針洗濯縫ニ而
売日ニ行出合致ニ有之候
ニ付候中之ニ付者夫婦一所ニ
居在之上ハ病中ニ候トハ居
中ニ不及候不埒ニ付急度叱り
此儀ニ付女房共申口ニ語合
ハ夫ニも押隠し不申候

然并不埒ニ付勤之者之間
此儀

評議之上ニ而

四十一

寛政四子年申渡　七番

火附盗賊改
松平左金吾伺

一長五郎儀佐助店ニ差置候ニ付
右ニ付無宿岩八并岩次郎
持逃又ハ盗いたし候一件

新和泉町
忠次郎店
火之番清

不持町役人借候
ニ付差置有之
もふなりの

右之もの儀不持町役人長五
郎儀家主借家主ニ佐助ニ

家主ゟ段宜ク並店ニ差置ク
候ハ候御法度相背出家養
増賣之儀ハ質ニ致候ニ不及候
其上從前年光平日中方等
家主名前々候ハ増ニ付地面五
ケ年之内取上
一 此儀定書ニ増賣質地之儀
取候もの之地主へ返
取上但五ケ年迄之地主へ返
し以下之外ハ取候ものゟ

之地ハ三ケ年過返し可
以下ハ有之俺不ニ候得共以下
以地主之儀定ハ無之清候
其去寅年去容川年寄相
伺以二番町文右衛門店人宿
長右衛門事子文次郎引
宿段之一件之内深川佐賀
町東林平伐文右衛門店長
右衛門方ニて去戌七月七日法
度ニ背候質地引増賣

之旨致之而他町ニ住居いたし
去ル申年右躰之始末北西国
ニ有之候ニ付去ル戌年取戻候
之心得方不行届候而不埒ニ付
急度叱り之上伺候之上ニ而
ケ年之間北西取上ケ申上候
無相済候例ニ見合伺之通
ケ年之間北西取上

評議之通

長兵衛店炭
佐助店茂八居宅向
側
家主
甚兵衛

伺候之趣奥右
ことし御通不成之の

茂八之儀向側佐助店茂八
居宅之儀法度相背四ヶ年以前
酉年十二月中旬ゟ去亥年八月中
旬迄右宅ニ而塞捨売いたし右口入
之候ニ付而其年之段平日
中之不行届未熟成成様之候
不埒之所小前之差遣し候之料

此段伺候此もの之者ハ吟味書ニ
見之ヶ間左金五郎ニ躰ニ不紛
松右衛門書付ヲ以被ヶ屑書
茂八五人組之もの共ニ有之候
立之故左衛門店之場所無之
ニ付佐助店借り之所ニ茂八
五人組之者共中ニ而増突
打当五人組等之上ニ過料ニ
内定之者共上ニ過料

評議之通

寛政四子年伺済　拾八番
火附盗賊改
松平左金吾伺
一　芝之二葉町麺類杜氏者茂太
郎ツ召捕之儀ニ付増突有之以
一件

芝之二葉町
久兵衛店
麺類杜氏者
茂左衛門

召捕之儀ニ宅ニ
其ヶ所ニ有之
之儀ニ有之もの

被召捕家業向世話致させ
置候安右衛門後家子茂太郎

訴訟右馬場寄之節之居宅江
罷越度旨申去亥年十月下旬
今接渉訴接渉候之処ニ付増
売払度相纏ニ而不罷寄宅之
銭右罷不残分中ニ而既ニ可
右馬ニ差置候いたし候ニ付年之平
日中ニ付右等宗右衛門ニ付銭不
一 増ニ付急度吃
此銭定書之趣掛之実
川よみかへしニ付右相致し

いたし候之料三貫文ニ有之
之延此ものハ田畑之節之様
之銭ニ付右衛門之銭当方ニ可有
金之者ニ而いたしものニ付
之者去亥年相当紀州之者
限候之上ニ而相分之上州上
小宮村之御前当本山領
験徳宝院玄沢銭天神講
いたしかね候之銭ニ而掛
実之集り候いたし候ニ付右為之

村役人より吟味中村役
所在無之も旅ニ而請候
まゝにて罷出候中ニ而一旦者
此之趣請取酔付候ニ而役博
奕いたし候段ニも不埒ニ付
不念ニ付急度叱置候ニ付定宿
留置中ニ而役ニ而御預九中村方
等閑ニ付相済ニ而急度叱り
評議之通済

寛政四子年十月　弐拾三番
火附盗賊改
長谷川平蔵伺
一当付家主長右衛門博奕いたし
｜｜一件
八町堀卓山寺店
家主　甚助
外　五人
博奕いたし候ニ｜｜
之ふ在之
店之の惣代之甚助店ニ居
住之長右衛門博奕者いたし
候処右科ニ付猶未不存之趣ニ付

晩之中会不行届方ニ候
不埒ニ付家主武助者前上ハ
過料之上百日手鎖
隣家源之儀者前上ハ過
料向後ハ並八右衛門者小前
ニ過料之料地主安藏卓
峯吉者地面之儀ニ付取上
名主清兵衛者過料五貫文
此段性賭ニ家引ニ及がる
是等ハ其の外罷ニ付

奕者ハ勿論家主隣家
向後地主名主茂咎ニ候
定も無之場百一同咎ニ付
及沙汰其の内場所地
此所宅ニ止宿致候者
八度ニ付家主儀賞所
奕いたし候ハ者者度ニ
候ニ付延引數ヶ條是等ハ
意見ニ加付方等閑ニ
不宜ニ付家主武助

之ニ急度叱リ置外之もの共
ハ不存様ニ而以来入念心附候
様可申渡候

評議之通候

寛政四子年 御渡 卯拾六番
火附盗賊改
長谷川平蔵伺

一 武州松山町友右衛門地借源八
江三笠附点者いたし候一件

武州比企郡
松山町百姓
友右衛門

借置候地内ニ而三笠附
又ハよみかるた賽博
奕有之を不存段無之
左候ハゝ可地面難
立上家ニ而も可定旨
候ハゝ

右之もの儀地面内源太郎宅ニ
而三笠附点者並金元いたし

或ハ新六地面内明キ小路ニ
よみかゝり升文を賽物賣
いたし候店躰ニ頼来置候
不相ノ渡世ニ候必候ニ付中村方
不行届候ニ付不埒ニ付太
地面五ヶ年ニ而取上

一此儀ニ方も地借り店借り
共も右地代店賃不払ニ付地
主年貢相納ニ相成候も
難義ニ付明和九辰年家[illegible]

中野小輔殿勘定奉行ニ而
手限ニ而吟味申付ヶ下総国
米倉村勘兵衛儀店請人も
ふ成置も勘兵衛義六兵衛八店
借置ニ上ケ候法度ニ隠し
売女渡世ノ様ニ候不埒ニ付
家屋敷取上五ヶ年之間店
賃ノ納方申付ニ付其店
賃を以家屋敷年貢相納ニ
買家ニ而も改定ニ引当ニ付

上ニ遠島之料ニ上百日手
鎖ニ相伺其通相済候例ニ
見合應答取上ケハ増重ニ
候とも同様之儀ニ付落着申付
上ニ遠島之料之上百日
手鎖

評議之通済

寛政四子年 御渡 三十九番
火附盗賊改
長谷川平蔵伺
一豊嶋町壱丁目権左衛門店
源左衛門紋紙抜引ニ當い
たし候一件
御材木石奉行支配
柳原御石置場
當人
孫兵衛

下當之者紋紙
抜引いたし候
不届之者

右之者儀下番人仙松紋紙
抜引當いたし候度右称ニ始

四十已

末〃當不存所無之候哉と申付
方ニ而相届有之候不埒ニ付過料
三貫文
此儀下番人仙松紋紙拵引
ニ相いたし候ハ神田八名
川町与八方ニ居候ニ付大蔵
ニ而借銭仙松宅ニ而嘉七ニ借
一當川岸一同人留之紋紙
拵引いたし候ニ付御仕置世話
いたし　但賃銭貰受候由

許いたし候処此味中見届
いたし置候処此度噂ニ有之此
味およひ候ても無之仙松ハ
病死いたし嘉七も見落ハ
ゟ仙松後家之ニ相
悴共も右之始末不存候ニ付
立町内ニ而も右手合ニ相
相頼ゟ紙も不相見此味
ニ而相違も無之儀ニ付而
仙松紋紙拵引ニ而居いたし

し候ニ付重も吟味不
相成候ニ付其段も右躰不埒
ニ而取計候ニ付不上ニ不及
御咎之沙汰

評議之通

寛政四子年御渡　寅ノ八十二番

日光奉行伺

一野州今市宿八左衛門博奕いたし候一件

日光御門跡領
野州都賀郡七里
村

権右衛門

隣家

組合

百姓
善六

外壱人

組合之者之遠慮
右ハ相互ニ謹慎し博奕
いたし候を不存者之

四十六

右之者之儀村内組合権右

続ハ平日実躰者ニ而ニ逆心
隣方も不行届同人方ニ博奕
宿いたし候ニも不存候得共役
人共不埒ニ付過料銭三貫文
申付
此儀去ル亥七月中同人博
奕いたし候もの有之候ニ付
置いたし候由渕甲斐守知行
ニ延高人遠島ニ無之実ニ
ニ付村方ニ而ハ役人共ニも心

付候而不存候得共同
八月同人手限伺之上仕
置申付野州飯田村百
姓権之丞方ニ博奕宿
いたし一件ニ付権之丞ハ江
戸払四方追放申付村
方ニ而者右博奕宿
金第ニ遊之歴ニ不届仕
候者遠相聞宿権之丞
も不憚設候旅人共を泊

く相伺候程之儀ニ付座候
百村方之もの共請答も
伺之節相渡、例ニ見合候
答ニ不及沙汰

評議之通渡

寛政五丑年御渡　十八番
火附盗賊改
長谷川平蔵伺
一中橋無宿者熊蔵御構場所
江立入候一件

長濱町弐町目
茂兵衛店
藤兵衛

居宅續之内
借受有之を不
存居候もの

右之もの儀居宅土蔵續ニ小部
屋二階有之候ニ付賃貸
貸有之処老年ニ而寄合知年

源蔵ハ急度仕置ニ付右衛
門娘喜多ニ不存旨孫兵衛
病気ニ付茶葉買ひ所出候段
宿中箭書之二階ニ騒候儀
有之ハ宜付ケ所候ニ不切右源
蔵ハ承知ニ而、酒食給ニ所誠
之者共酒興之上口論いたし
一 しく定中付方之言ニ致と存心
得ハ所業之宿中之ゝ怙之右衛
門ニ抱ニ憐愍有之ニ付老

年ニ相尊鐸源蔵ハ仕置
候ニ付所中心附方も可有之処
無之儀畢竟若ニ心附方
不行届故之儀不埒ニ付前
上ニ急度遣料ニ上百日手
鎖
此儀老年ニ相尊見世し候
ハ智鐸源蔵ハ仕置ニ付處
其已外ニよりの者源
蔵ニ相渡ニ上償ニ候ニ付

評議之通候

賣惜賣いたし候ハ買
ふさね所生は上ハ山ゟの宅
にてし候ニ付此度以後
しかのともゟ莫事中件
方ふ行届深欲候惜賣
有之候ハし姫末ハ家ゟ此店
并ひに中村ふ行届も同様之
類ニても之候節百家ゟし定
之儀し細と上承上ヽ急し
過料ゟ上百日手鎖

寛政五丑年 吟味 二十三番
火附盗賊改
長谷川平蔵伺
一 檜本町四丁目惣兵衛店平七
悴変死いたし候一件
神田明神西町
三次郎店
吉右衛門
悴変死いたし候を
病気ニ而打臥居候
ものゝ
店しりの儀病気ニ而打臥居
候ニ付御安否為尋鍼医母志がん
お尋いたし候処備之よみか
ひ毎打ニ付買ニ障子を建

置候ニ付右科ニ准し始末見込ニ相成
高物ニ請取候しハ余と見ヘ
相心得居候上ハ其中之候を
畢竟心附方不行届故之儀
不埒ニ付過料三貫文
此儀安右衛門ニ外ニも有之よ
身分ニ而いたし候ハ病氣
ニ而打臥居候上ハ上ハ心附方
不行届之儀ニ付急度叱り

評議之通

寛政五丑年十一月 宗ノ承要
火附盗賊改
太田運八郎伺
一四ッ谷右安寺門前八十次郎
博奕いたし候一件

四ッ谷右安寺門前
家持
七兵衛

土蔵え忰他所之者引入博奕いたし候を不存者

右之者儀居宅續土蔵二
階え忰八十次郎他所之者
引入数度賽博奕いたし
候処右始末見向ニ不存居

在之候病中ニ候とも有之節
者ハ中村方不行届ニ付
候不埒ニ付所上ニ應し過
料之上百日手鎖
此候者ハ去年松岸犯罪
有之手限伺之上右之者中付く
上州上小泉村之内御料名
本山修験徒宝院玄瑛
天神講ノ為ニして出銭
之もの共増賣之義ニ候似ニ

し候ニ付名主村役人ヘ異変
申付ニ候処右之無之故ニ候
請備候ハバ一々何方ぇも
申聞一旦相止ニ候処又々
弊計り之為ニ掛ケ賣いたし
し候儀差支有之候段申立
立ニ付不届ニ付同人ニ候
尤右病中ニ付等級程
ニ候ハ心附候不宜ニ付
過料銭三貫文

評議之上

四谷長安寺門前
家持
七左衛門東隣
家主
久次郎
同人家並
久次郎店
万右衛門
外四人

博奕いたし候を
不存隣家家並
之もの

右久次郎儀隣家七左衛門居宅
續土蔵二階ニ而七左衛門悴八
十次郎并右外四人之者共申合
ニ而数度金銭賭博奕いたし候儀ニ而
右之始末等ニ而不存旨申立候
年来心附方不行届
有之儀不埒ニ付其上ニ而急度
過料
一 万右衛門外四人儀家並七左衛門
居宅續土蔵二階ニ而右七左衛門
悴八十次郎并右外四人之者共
会ニ而数度金銭賭博奕いたし候
儀右之始末等ニ而不存旨申立

之段早速罷出心附方不行
届故之儀不埒ニ付過料三貫
文ツヽ

四谷大宗寺門前
名主
清右衛門

右之者儀支配町内
七右衛門店居宅續土蔵二階ゟ
右七右衛門悴八十次郎手前外
との内出火之節度ゝ覺悟
焼失いたし候処右之始末當

ニ不相成段出火之段早速心附方不
行届故之儀不埒ニ付過料三
貫文

右之儀去ル子年評議之上下ヶ
札渡之上長谷川平蔵相伺
八丁堀卓峯屋敷家主忠
助地借請名主清右衛門
八右衛門地主安藤卓峯
名主清右衛門儀元忠助店
二段出火之節右衛門掛煩ヘ同

之処右衛門儀猶栄不存候事ニ
候然ニ申合不仕居候ニ付
不埒ニ付家主甚助其外
五人組之者共ニ上ケ百日手鎖
隣家源右衛門ニ者過料ニ為申付
過料向側名主八左衛門ニ者小
間ニ為申付過料地主安兵衛
卓峯ニ者地面召上年之内不
上者ニ者清左衛門ニ者過料五貫
文ツヽ申付候得共相伺ニ及

候儀ハ宝引ニ而かけ候ニ付
右之者共名主ニ告ケ出候ニ付
右之ニ家主隣家向側地
主名主共ニ不及沙汰候
ニ右衛門儀者右衛門宅ニ而
入申候ニ付御吟味ニ及候
手段賽博奕ニ而此者共
無度ニ候而之処不存候事ニ
御宗平表之者共ニ申付者
賭宗ニ候而取リ候ニ付家

主甚以不届ニ付度々叱リ置候得共
不止其上ハ無構ニ申候ニ付
以来入念心付候様申渡候処
親共ゟ不然旨申上候迄
御糺之上例ニ見合一同無構
其以来入念心附候様申渡

評議之通

寛政六寅年伺済　四拾壱番
火附盗賊改
長谷川平蔵伺
一　茶附無宿倅無宿手目博奕
いたし候一件

両国尾上町
清水清店
料理茶屋
平八
外弐人

酒食調之節
ゟ博奕いたし
候もの之

右之もの儀酒食調之節
候もの二階ニ而目切紙ニ而
為いたし候筋ニ付銭八貫文過料

三十

度旨御触之処道具類売候
者有之不心附当申之儀先日ニ
大勢人入込候ニ付心付方も可有
之処無其儀既持売有之候段
不束ニ付生平是ニ付屋敷ニ候
不埒ニ付過料銭三貫文
此段去ル戌年評議之節下ケ札
以大坂町奉行相伺、摂州北
平野町四丁目綿屋たきニ借
屋御座候、外売人候売

売候ニ付銭以上の者ニ相当
其ニ酒家ニ召出手目持
売いたし候迄ニ不在所在之段
改方不行届ニ候不埒ニ付
屋、罰急度叱り之相伺評
議之上伺之通ニ付上之通
相済、例之其余一同急度叱
り

評議之通済

寛政六寅年申渡　八拾番

火附盗賊改

長谷川平蔵伺

一　本石町四丁目善六店平八博奕

いたし候一件

本石町四丁目

名主　伝右衛門

同町長兵衛店

岡右衛門地主仁右衛門

上州勢田郡花輪町

住宅ニ付

店支配人

武兵衛

博奕有之候ニ付

名主呼出不行届

地主ニ付外店支配

人

右之もの共儀岡右衛門宅ニ而大

商人集り数日掛売いたし候処
店銀を取集め不申候ニ付
出候ニ付方ゟ行届不申儀
不念ニ付借家人共儀ハ過料五貫
文申付武兵衛儀ハ地面三ヶ年
之間取上
此段借家人共掛売仕者ハ
名主ハ急度可伺之過料銭
五貫文
一地主仁左衛門ハ上州花輪町
住居いたし候処他所ニ罷在
候地主ハ店地面引請人吟味
之上心附方等閑ニ而店子掛
売仕者之地主ハ急度叱り又合
三ヶ年之間地面取上ケ候も
住居ハ此段地主ハ他所ニ住居い
たし候家主ニ而も店支配
人差置候儀ハ不少候ニ付店支
配人共不行届附候ハ地面取
上ケ候地主ハ急度叱付店支配

人ハ其給分ニ而他所ニ所在之地
主も其所ニ住居いたし候地
主同様拾ヶ年之内地面其上
々有之者相当仕買取候質
家屋鋪証文いたし候ハゝ地主
へ之内定但書ニ承合いたし候
ものゝ地主ハ三ヶ年迄返し
可請取旨之趣ニ者同様ニ而
屋之質仁店借等者他出ニ住居
候ハゝ万一其儀ニ付村方不行
届候ハ不容易之借屋者店借
定ニ准し三ヶ年之内地面并上
或者借店支配人ゟ織守家
主ニ准し可申もの之度支
配いたし候店内ニ数日特質有
之候を不残所在ニ有之不容易ニ
付店借質特質家屋主ニ付
定ニ准し取上ニ急度之料ニ上
百日手鎖

評議之無候

寛政六寅年御渡　八十八番

火附盗賊改

長谷川平蔵伺

一　深川熊井町吉五郎博奕宿

いたし候一件

深川熊井町

家主　吉五郎

店之者差置候者宅ニ而

博奕いたし候ニ付右之者

右之者儀店之者差置候吉五郎宅

ニ大勢人集り賽博奕いたし候処

店躰之者ハ不存罷在候由

申之候得共度々之儀ニ候得者

之三度迄増賃いたし候処不承
知店立ニ申渡候ニ付右不行届
畢竟心得方等閑ニ茂不
埒ニ付急度叱り
此儀者去ル子年評議之節下ケ話
成ル去谷川平兵衛申上八丁
堀卓峯屋敷家主甚助殿
之店之長屋ニ茶右衛門与申御増
賃いたし候処右解ニ付業
其ニ不承知ニ而店立申渡候ニ付
右不行届成ニ付候不埒ニ付右
上ニ而ゟ之料之上百日手鎖
ヒ相伺評議之上准キ徒之出
引よみかゝさ折ゝの無理
ニ増賃折ゝもの之家主隣
家向側地主名主ニ而も給ニ而
定も手代寄ゝ貸給ニ而不及沙
汰ニもの之店賃相済茶店諸宅
之よみかゝさ折ゝ成ニ而
儀ニ而以後無ニ而増賃いたし

以上一両度も贖之処不致居
在ニ付未募り申付方等
深ク尋記り候贖料名前呼
リ上申上ニ而無之趣ハ例之定
合伺ニ而無之名前也り
評議之無之事

寛政六寅年 御渡 九拾六番
火附盗賊改
長谷川平蔵伺
一上野元黒門町家主清兵衛店吉五郎
文清悴安次郎一件

上野元黒門町
家主清兵衛店吉五郎弟清
北島
大伝馬町弐町目
家主清兵衛店
家主藤清

地面ハ内ニ居ル者
宅ニ日ニ付出入以
いたし不届之者ニ付
年ニ而地面の上

右之もの儀不相応ノ町居家ニ住
居以之候 家主清兵衛店吉五郎弟清

五十三

宅ニ大勢人集り賽博奕度々いたし
し候段右科ニ准し家財取上ケ所払
可申候処他所ニ住居いたし候もの
候ニ付其節ニ付方ニ引受居候
段不届ニ付右地面五ヶ年之内取上
此段去丑年評議ニ而下ヶ候成
ニ付長谷川平蔵相伺出候濱町
一　弐丁目蔵之請店奉公請地主町
年寄共厳重申渡候町方引
支配名代手代村役人儀々候段
領町役人ニ住居いたし居候
奉公請宅之日々立寄候者賽博
奕有之候処右科ニ准し家財取
上ヶ年之間別而厳敷申渡置候由
申ニ付右科ニ付立寄候者
奕有之ニ付上聴ニ及候者ニ付
心掛方も不行届之処他所江住
居いたし候もの科ニ准し家
財取払連不届ニ付右地
面五ヶ年之内取上と相伺候

通相済候得は又合同ニ通定ケ
年々内地面取上

評議之通済

上野元黒門町
家主半兵衛組合家主
宇兵衛
外 訴人

組合之もの宅ニ而
博奕いたし候ニ付
右之もの

右之もの儀組合之内家主半兵衛
店吉五郎方借宅ニ而大勢人集り賽
博奕度々いたし候趣相聞候ニ付右
中之者共召捕吟味之処右附組
合之者共ニ上ハ心附方も可有之處ニ
手段ニ而宇兵衛儀ハ同地面ニ
居吉五郎方借宅とハ相離レ候
場所故入口障子締置候ニ付右之者
大勢人出入有之候ニ付心附方も可
有之處等閑之儀ニ付右宇兵衛儀ニ
も其外組合之者共之儀ニ付手早
心付候ハ吟味中合ニ入候処右之儀不埒
之段申付是非三貫文ツゝ
此儀博奕打罰之五人組並之

抱し置候科ニ付定有之候得共
右者博奕いたし候もの五人組
ニ附りの者ニ而家主之組合ニ
有之候て者不及咎之沙汰

評議之上済

寛政六寅年申渡　百十一番

火附盗賊改
長谷川平蔵伺

一四ッ谷天龍寺門前家主平左衛門
徳右衛門博奕いたし候一件

四ッ谷天龍寺門前
家主吉右衛門組合
家主
市郎右衛門
外弐人

組合之もの宅ニ而博奕
いたし候を不存との

五十四

右之もの共儀組合中家主吉右衛門
店伊次郎宅ニ而人集り致賽博奕
無度いたし候度毎ニ不存由申

いたし候処、右手ニ而心付無是組合
者共差押、手拾も無之、早速召捕
申合不行届故、其不埒ニ付
過料三貫文ツヽ
此段博奕打宿之者五人組頭上
ニ而過料ニ而定ハ御座候
博奕打ハ博奕宿ハ同しく
一 もとの者五人組之内此ものハ宿
之儀ニ付組合共御咎ニ不及沙汰

評議之上決

寛政六寅年御仕置　　百弐十七番
京都町奉行伺
一 堺屋町五丁目菱屋源七父足打
源四郎事源兵衛博奕宿致し
右一件

中筋子守東之入町
五人組　次兵衛
外壱人

組合下々之者方ニ而
博奕宿いたし候ニ付
心附之もの

右之もの此度町内井筒屋市兵衛
方ニ而博奕宿いたし候儀者不存
右申し候処博奕宿之儀ハ兼而

五十五

数度御触も有之所役ゝ儀ニて
押て右躰之儀致候段不心得ニ付
不申知候段不埒ニ付当人ハ叱上
三貫文過料
此儀町中抱借家之者博奕宿
いたし候儀有之家主ニ而年
所在此もの共一同支配いたし候
儀有之候ニ付御定之通過料
一
銭五貫文ツゝ
諸役ゝ之通

寛政七卯年御渡　五十五番
火附盗賊改
森山源五郎伺
一武州橘樹郡之村組合博奕いたし
——いたし一件
武州橘樹郡之
村
名主　検蔵
外　三人
村内百姓家ニ而博奕いたし候ゝ不存候もの共
右之者共儀村内百姓七右衛門店
組合宅ニ而大勢人集り賽博奕
又ハ免合博奕有之度ゝ在候処

五十六

之段早速候ニ付吟味仕候處
等閑有之候儀不埒ニ付給ニ急度
叱り
此儀當三月曲淵甲斐守手限ニ
而上候得共御料武州小右衛門村
名主年寄共儀非人共ニ
儀村内香取八幡境内ニ小屋懸
一 右之通し一同在之ニ一旦ハ追拂當
又立戻り候在之処等閑ニいたし
置候段御儀非人共百姓共之
集敷度悟無之候得之旨不届候
之候得共ニ付名主年寄共去年
取斗之上ハ心付方不行届ニ付
之者名主ハ過料銭三貫文年
寄共急度叱置候ニ付又右七
右衛門ハ家主之儀ニ候得共万
名主役儀同様過料銭三
貫文ツヽ右衛門孫右衛門ハ一
同急度叱り

評議之上済

寛政七卯年中渡　尾張番

火附盗賊改

森山源五郎伺

一深川冬木町者松五入墨松次娘

賣女いたし候一件

麻布今井寺町

庄七店

勇次郎

宅後ニ而売女いたし

候迄不存もの

右之もの儀居宅後空地ニ而店

之もの之外他所之もの共集

賣場売女為致いたし候度不届候

左之牒年寄之ニ心附方等寺宗

店之儀不埒ニ付過料三貫文
此儀ハ其の借店ニ差置候ハゝ店請
之地主ゟも掛合ニ有之ニ付家主
並之儀定置と難行届ニ付掛
合ニ付不念ニ付其の店ゝ召
上ケ之不及沙汰

評議之無之

一　同町家主
店七

店内之の筋ニ有之
掛合ニ付候得ハ不埒
家主

右之もの儀店内ニ勇次郎宅ニ
地主ゟ店内之もの其外他所之もの
共相集り博奕度々致し候
處右稼之躰来り候ニ付不埒ニ付
候ニ付畢竟右躰之儀ニ付方不埒
付等閑之儀不埒ニ付過料五貫
文
此儀ハ地主ゟ博奕ニ付店内
之もの者差置候儀ニ付家主
之者博奕打共ニ家主ゟ候
定之見合不届ニ付過料

沽券貫文

評議之上無滞

右 庄七地主
みよ後見
小兵川角
家持
傳六

不相之町屋敷沽券之上
有之情実有之上
右地主

右之通之儀不相当之町屋敷ニ而
置候庄七庄七勇次郎完渡江
地面右庄七庄七之之ノ外他
所之もの共集り質情実故

之ニ之処庄助之故出来ニ而ハ
有之候共所持地面不行届之旨
方ハ当ニ者ニ中付有之ニ付屋敷
不埒ニ付過料沽券貫文
此儀家地面之情実ニハ此儀
何れ此等の地面内之儀ニ付
之者情実者有地面ニ付御定ニ難
之五ケ年之内地面ニ上

評議之上無滞

支配いたし候町内ニ
貸家有之借家人共ニ
而名主

同町
名主 七左衛門

家主共儀支配いたし候町内店
之店ニ罷在候店役宅地ニ茂店
七店之者共其外他町之者共
相集り寄合之節借家いたし
家主共儀之振舞等不都合無之
候儀者申付方不行届之儀ニ付
借家人急度叱り
此儀借家いたし候もの

名主共御定ニ准し之科料
五貫文

評議ニ無滞

家主七組合家主
甚四郎
外 壱人

組合家主店役ニ
借家いたし候ニ
有之もの

家主共儀組合家主店七
店役宅地ニ家主店七店之者
其外他町之者共相集り寄
借家いたし候処右科之始

末方ニ不存ト申ニ候ハヽ格別之儀
相手之者共心附候得合候上ニ
心附方も可有之処等閑ニ致候
合候段重々不埒之至ニ付急度
可申付候得共格別之儀を以此度ハ
急度叱り
右依御定書特変之趣ニ而
家主五人組名主共ニ而者
咎ニ不及沙汰

評議之通済

寛政八辰年御渡　四拾弐番
火附盗賊改
森山源五郎伺
一深川六間堀代地町伴之清方ニ居候
悪者人を殺候一件
武州葛飾郡
柳島村新田
名主
治郎右衛門忰
当辰
佐左衛門
浪人
茂右衛門
年寄
市右衛門
治郎兵衛
善右衛門

簡条有之特変無之
不及その

定七組合ものの無代
久八
惣百姓代
久次郎

右之もの儀村内百姓定七儀ニ付
ニ而右之文言ヲ以名主江相集め贈物
差出候処不及是非其段村
役人共儀ハ平生申付方等閑ニ付
組合并惣百姓共儀茂申合ニ而不届ニ付
一 右体不埒ニ付名主ゟ過料五貫文
年寄組頭并組合之もの共ハ過料
三貫文ツヽ惣百姓ハ村高ニ応し過
料
此儀以来書付ヲ取候ハ定メ之箇条
有之ニ付贈物差出名主定七儀をも
詮議之名付詮議之者共贈物ヲ受致
一 右不得已候儀ニ候ハヽ難申立惣
差出置候沙汰定但書無之も見
合候ニ付名主ハ過料組頭過貫
文年寄組頭組合之もの共
ハ過料三貫文ツヽ惣百姓
者ハ村高ニ応し過料

評議之通被

寛政八辰年御仕置　四拾九番

火附盗賊改

森山源五郎伺

一武州幸手宿傳右衛門後家とめ

方ニて店かり孫右衛門三笠附いたし候

一件

武州崎玉郡

吉羽新田

名主

久八

同村

百姓

三世松

村内ニて三笠附有之

上ハ名主ニも不届

姓

五十九

右之もの共儀村内五郎次宅ニ

江戸表ニ而法度被仰付候三笠
附点者并金元之もの大勢人
集いたし候ニ付不届至極ニ付以来ハ
候ハ盗賊之儀ニ而政道段々有
ニ三世相候ハ隣家家並ニ而金
之者ニ付外百姓も無之候平
日ニ而次中合理合同様先年より上
一 心附方ニも有之候而無之候半
是平日心附方而行届等不届
候而相乏ハ候ハ過料五貫文

三世相候ハ過料三貫文
此儀は床書ニ而ハ五貫文次候
完ニ場所ハ新田ニ而有之候次
第ニ候ハ三世相三人ニ外百姓
ニ三世相ハ万事ニ而次中
合理合同様村内ニ候先年ニ
右有ニ三笠附者ニ而名主町
年寄も過料五貫文同五方ハ
組頭五人組而過料ニ有之御
定之通り何ニ而無之名主ニ候ハ八

之料銭五貫文三世松之間三
貫文
評議之無之

寛政九巳年申渡　十八日
火附盗賊改
大久保忠左衛門
一深川永代寺門前仲町文次博奕
ゝゝゝ之一件
深川永代寺門前仲町
仁平次店
文次家主
利兵衛
同
文七
博奕宿之儀ニ付
右之者共儀家主文次宅ニ而賽
博奕宿致し不届至極ニ付右

文次隣之七方ニ書面ニ利兵衛
方新諸ヘ参リ候处、吹ノ家主方
有之文七儀ハ右利兵衛ニ又隣家并
且人共答ニ不及沙汰
右儀文次東隣之七兵衛と次郎店
之隣利兵衛宅ニ同人隣文七ニ
相当り地面隣ニ而ハ訴達候
一店新諸ヘ参リ上六且人共家並候
店方店借定ニ追料過料三貫文ツヽ

評議之通過料

寛政九巳年御渡　七十九裏
火附盗賊改
池田雅次郎伺
一浅草新川町吉兵衛悴要い
与——以一件
浅草蓬妙寺門前
定行事
丈助

悴要之——ハ
名主所役人

右之者之儀、評定所扱ニ地面
之内ニ店借宅ニ人集数日悴要い
——之趣、当ヘ不取敷ニ由申——之候
右者許人集り——ニ心附方も可

有之処今年之儀平年壱年ニ而諸方ふ
引合等紛敷之儀既ニ悟変いたし
之儀をも不存居与之段不埒ニ付過料
五貫文
此儀吟味書之趣ニ而ハ吉つ町之儀
於名主年々取り不定引ニ而
定請ニ而取扱来り候ニ付名主
一 同様之儀ニ付増変者無之しれとの
左町年寄之儀定ニ足合候
無過料五貫文

評議之無之

寛政九巳年御渡　九十六妻
火附盗賊改
池田雅楽頭伺
一芝車町政右衛門方ニ居候伊之助
悴変死いたし候一件
南品川宿
名主
吉右衛門
組頭無代
次郎右衛門
百姓無代
利右衛門
宿役人之もの悴変
宿内ニ而いたし候ニ付無
まの
右之もの儀宿内小多清店
六十二

為京銭定候ニ付他所ニ而者
相集メ銭貫文賽博奕者
以之ヲ度々宿致もの并村役人
於銭ハ申付方ニ不行届無百姓ニ於
銭ハ年生ニ人合ニ不行届ニ難不物之
付名主ハ過料之貫文組頭ハ
過料三貫文ツ以熟百姓ニ者宿ニ
一前々過料
此銭三度已下之儀ニ付博奕之
決定村役人共ニ不行届ニ付

度々博奕之銭ハ当付ニ
不宜廃ニ付法も度々
制方ニ行届銭者名主ハ急
度叱り組頭ハ叱り熟百姓ニ
皆不及

評議之上極

寛政九巳年十月渡　午六番
大坂町奉行
成瀬因幡守伺

一摂州今津村真福寺住持智雄
　不埒之取計いたし候一件

　　　　　　岩佐[illegible]蔵御代官支配
　　　　　　摂州武庫郡今津村
　　　　　　　　庄屋
　　　　　　　　　文四郎

右之もの儀私村借屋ニ而浄
瑠理稽古場ニいたし候儀を浮心
之儀ニ付同村ニ而雅掛疑敷

假又ハ相ハヽ亀屋庄治郎與申ヶ
者ゟ儀此度ハ相成候ニ付不存候
在ゟ候全名前人共も不分置右
被人尋候ニ付しかしながら事数等
無之候斗不念ニ付過料三貫文
此儀去ル戌年諸職ニ付下ゟ相成候
大坂町年寄相伺ニ付摂州北平野
町綿屋善三郎借屋綿屋新蔵
外壱人儀売買請之候ニ付賣買以
しかしながら料理屋ニ而酒宴等
致候ニ付諸発候得共しかしながら不存
候段在ゟ候政方不行届ニ付候
不埒ニ付急度叱り之上相伺諸職
之上伺之通申上ル通相済
ニ相成候ニ付又ハ不宜ニ付伺之
通過料 銭三貫文

諸職之通相済

寛政十午年伺済　三十七番

日光奉行
有田播磨守内

一日光大工町久兵衛持家作建之一件

日光西町之内
下大工町
年寄
源八
外壱人

宅之持家以之
以之不存候也

右之もの儀久兵衛宅ニ而職人共
居銭酒煮売　調理并品々
ちよふ一持家以之一又ハ先々
かり之材木をも不残上下之商

以之ニ而博奕いたし候ものハ
村方等宗旨致し候者ニ不拘ニ付過料銭
五貫文ツヽ
此段兼而被仰渡候處博奕ハ
縦令筒取いたし候とも地主並
尤ものゝ不及咎被定も有之候
百右ニ付候ハヽ重キ咎ニ及申
一 附而勿論品ニ依筒博奕被定之
ケ条ニも村役人共も被咎ハ無之候
處ニ依候而大金ニ而宅ニ而品ニ依筒

博奕又ハ兎角之かるたニ打候儀
も有之賭之諸勝負並ニ
おゐて厳重ニ被仰出も有之處
中村方等宗旨改ニ付不念
ニ候ニ付急度叱り
但科書ニ高之ニ付候儀相
除可申渡

評議之通被

寛政十一未年御渡　拾七番

火附盗賊改

池田雅次郎伺

一　貸店火附并盗又者博奕いたし候一件

南品川不川寺門前

家主

久次郎

店ニ差置候もの方ニ而

博奕いたし候ニ付店貸候

もの

右久次郎儀店ニ差置候源吉宅ニ而

他所之もの共相集り賽博

奕有之候を知居乍不存旨申

立候ニ付店貸人集いたし候心

六十乙

付方ニも可有之処無其儀平意
平日心附方不行届ニ寄宗旨帳ニ
既ニ帳面ニいたし候処不束至
ニ限不埒ニ付急度叱り
此儀去ル子年評議ニ而下ケ札
ニ長谷川平蔵火附盗賊改ニ
節、相伺之趣浅草田町弐丁目
家主清六儀召仕宗七を相
寄ハせ一体法度ニ可有之処
変死之儀ハ不届ニ申中ニ候ハ、
節中出候ニ付方ニも可有之処
無其儀不行届候不埒ニ付
主役所放免上ニ而遂ニ料
ニ上百日手鎖ニ相伺評議
之上急度叱と申上ニ而相
済候例ニ見合何レも急度
叱り

評議之通済

寛政十一未年 御渡 六十八番

火附盗賊改

池田雅次郎江付

一武州新京井村八郎兵衛女房博奕

いろし—外一件

小普請組
堀田主膳支配
高谷栄三郎知行
上州新田郡
東矢嶋村
名主
彦右衛門
与頭
小右衛門

村内にての事ニ付
夜詰しも差不在
御呼ニ村役人

六十六

右之もの儀村内百姓與左衛門
宅江人集賽博奕いたし候ニ付
右ゝ出申し候得共早速之処心付
方不行届等閑之儀既博奕
有之候段ニ而も不存居候段不埒ニ
付名主ハ急度叱り組頭ハ叱り
此儀心付方不行届不束之至ニ付
一 同伺之通名主ハ急度叱り組頭
ハ叱り

評議之通済

寛政十一未年 御渡 六十九番
火附盗賊改
池田筑後守伺
一 武州西方村百姓幸左衛門博奕
いたし候一件

御代官
野口辰之助支配所
武州埼玉郡
西方村
名主 茂左衛門
年寄 清兵衛

村内之百姓博
奕いたし候ニ付
右村役人

右之もの儀村内百姓幸左衛門

宅ニて無據も博奕いたし候段
不届ニ付、以来右躰之儀無之様申
しつけ候処、右躰博奕有之候ハヽ
心附方も可有之処、無其儀年
寄共ニ付、村方ニ而所厚申聞
之儀不埒ニ付、急度叱り年寄
共叱り

一 此儀ハ急度之儀ニ付何急度
五人組ハ急度叱り年寄ハ叱り

評議之通済

寛政十一未年 正月 七拾五歳
火附盗賊改
池田筑後守伺
一 武州瀬淵村四郎右衛門博奕いたし
候一件

黒田豊前守領分
武州榛沢郡
瀬淵村百姓
四郎右衛門
右同人妻
かね
右同人倅
四郎右衛門妻
清祢

倅并夫博奕之儀
いたし候を不存居
無構もの

右之者共住宅ニ而四郎兵衛
人集いたし賽博奕宿いたし
てら銭貰候之上ニ渡世致候中
し候ニ付手中ニ不存者共年限手
意之平日心附方不行届宮宗右衛門
儀不埒ニ付四郎兵衛太兵衛儀ハ身上ニ應
シ過料ニ上百日手鎖か免候
一 福儀ハ急度叱り
此儀去ル丑年請状ニ而下ケ蔵く
長谷川平蔵火附盗賊改之節
相伺之上濱町弐丁目弥兵衛
儀居宅土蔵續小部屋二階
ニ而日々いたし様之賽博奕有之
孫老年ニ相成候ニ付孫蔵江
任セ置候ニ付右弥兵衛ニ渡世致させ
少年孫蔵三郎ハ病気ニ付等
世話ひ候者共当中前書之二
階ニ而騒敷儀有之候ニ付居
候ニ付右孫蔵ニ而不酒会
候之盛ニ有之者共酒無之上口

論いたし候中少々宜き方ニ而相頼ニ
相心得候所無之由申之候得共右
科ニ而ハ様子構変有之候
ハヽ先年ニ相成候得共源兵衛儀
差置候ニ付其中心附方も可
有之と然共其段早速取
計方不行届候儀不埒ニ付
身上ニ應シ過料之上百日手
鎖と相伺候上伺之通申付
申上候ニ見合伺之通四郎左
衛門者身上ニ應シ過料之上
百日手鎖外者之人共ニ不念
ニ付急度叱り

評議之通

寛政十一未年御渡　八十四番
火附盗賊改
池田雅次郎伺
一上州新町宿ニ而庄五郎与申者博
奕貸元いたし候一件

布施孫三郎御代官所
上州緑埜郡
新町宿
名主
武兵衛
同組頭惣代
平右衛門
同
百姓惣代
忠右衛門

村内ニおゐて博
奕いたし候ニ付
不届ニ付

六十九

右之内役宿内甚三右衛門
居宅物置不残焼失候ニ付貸元増
賣右衛門度〻いたし又者鳥川中
洲ニ而焼失之節貸元増賣数度
いたし候不届ニ付所払村役人
共儀者宇日中村方等宗旨役
並百姓共儀者申合不納届候
一増ニ付名主者過料五貫文組頭
者過料三貫文惣百姓ハ村高ニ応
一過料

此役一件ニ付内所払候宅ニ而
増賣いたし候者共者不埒ニ付
鳥川中洲又者同右衛門五右衛門
居宅ニ而外貸元ニいたし
役ニ付所払いたし家主武右衛門
者増賣筒元并三笠附金元
いたし家主ハ定而見合其上ニ而
一過料ニ而上百日手鎖筒元
金元ニいたし候ものニ付村役
人惣百姓共儀者定而無候

庄太郎店組頭共ハ一件ニ而
十二ヶ浦同様之就ニ付急度
叱り惣百姓共者外ニ不及沙
汰

去未十二月五日評議仕申上候池田雅
次郎相伺候上州新町名主庄五郎
与申者博奕貸元いたし候一件
之内右名主武兵衛儀同人店
庄五郎儀新町名主裏烏川中洲ニ
而貸元いたし賽博奕三度いたし

一旦右新町名主家ニ十二ヶ浦店
並三ヶ浦方宅ニ而同様訴候段
申もの之者有武兵衛義家ニ
而定候ハ難見守計ニ頼及候
少右烏川中洲并新町名主裏
畑並城古烏川并ニ右川向附
洲之儀ニ有之名主ハ四町程隔
有之所書元ニ而者庄太
此儀右武兵衛店庄五郎并博奕
貸元いたし候ハ博奕所

右之内定ニ三笠附合之〻
内定ニ引当候ニ通之隠ニ
致仕候ニ付武ニ清八ニ増賞
貸之以〆〻の〻家主ニ
内座〻首〻五郎増奥以ト
候場所ニ拘者三ケ条之者主
内定ニ付不上〻過〆過料〻
上百日手鎖ニ而諸役仕候〻
内座ハ

評議之通被

同右
主ニ清兵衛家主
百姓
十ニ清

店内之〻の者〻筋
増奥以〆〻〆〻を
ふ存〻の

右之〆の儀店之〻置之主之清
満る宅〻店五郎貸元増奥者
以〆〻〆〻〆未ニ存〆在之〆旺半迄
平日心附方不行届等〻〻〆儀
不埒ニ付過上〻過〆過料〻上
百日手鎖

此儀一件之内庄五郎博奕
打宿いたし候儀ニ有之候
ニ付百姓家ニ而鉢合ニ相成
中ニ而度々少々之博奕賭之諸
勝負致近年ニ而も度々致
候出候者之儀心附方不行届
不念之段者急度叱り

評議之通

寛政十一未年御渡　八拾九番

火附盗賊改
池田雅次郎伺

一上州惣社新田町小傳次博奕
いたし候一件

松平大和守領分
上州群馬郡
惣社新田町
名主　角太夫
組頭惣代　幸七
百姓小傳次
組合之者惣代
久米右衛門

村役人之者博奕
いたし候を不存者

七十

百姓重次郎
組合ニ而出代

十加　七

百姓出代

又次郎

右之者儀村内百姓小傳次
又八重次郎宅ニ大勢人集賽
博奕宿いたし候処右之者共
罷出候所村役人共儀平日申
付方等不届之儀組合共無音
姓共儀も申合不行届ニ付不

博奕宿之過料五貫文組頭
并組合之者共八過料三貫
文ツヽ出百姓共村高ニ應し過料
此儀一件之内小傳次并重次郎宅
ニ而も度々博奕いたし候ニ付答
之對一件吟味書之趣ニ而八重
次郎儀欠落いたし候処右同
人共ヘ懸合之上貫請之儀
ニも相聞不申博奕并宿村方
之者共之御定ニ付難相済

然ル処去ル請願之年中ゟ
農業手ニ付出し有之処心附
村方ニ而取計不益之村方名主共
急度申付候其旨組合共之
者不心得ニ付而百姓共咎メ不
及沙汰

評議之通無構

寛政十二申年御渡 廿八番
甲府勤番支配伺
一甲州今福新田百姓良右衛門盗
いたし候一件
塩谷文左衛門御代官所
甲州八代郡下大
鳥居村
忠右衛門
右之もの儀病気ニ付在所ニ居候
処在中之旅籠屋ニ罷越
留守宿者置候着類其外四
人之もの着類取候ニ付之

節〻内ニ銭弐百拾文有之候
女房申付候而相渡翌日文右衛門儀
夜〻相尋候而中川筋等探候ニ付
ト申者方へ罷越候節右始末申聞置候上
寄合候ものゝ死骸見当候及訴上天
正かゝりいたし候儀ニも不及候
寺社奉行所へ付被
此儀吟味之上被成候ハ其ものゝ大病
ニ女房ハ看病いたし罷在候
〻儀ハ日雇稼ニ女之住居ニ罷

定吉ゟ申立候ものゝ内天正かゝり
いたし候儀ニ不及候ものゝ有之よし
かゝりいたし候ものゝ内有之も
難引当年之根岸紀
前ニ而勘定奉行ニ而手限
伺之上吟味中村ニ上州小泉村
并山形徳宝院ニ而決候天
神主ニ而いたし候所ニ而相生ゟもの
右持参之者似いたし候寺
為相村役人ゟ差出候中付之儀

右度毎ゝも彼ゝ詮議有之
致洞察旨申渡一旦相止候迄
酒ニ給酔ひ候而申渡
度ゝいたし候儀者不相成
其上ゝ候ニ付叱り置候處
例之足合不宜候間過料
銭三貫文

評議之通

寛政十二申年御渡　五十一番
大坂町奉行伺
一 備中国熊田村若宮ニ而大一と唱
富仙寄以博奕いたし候一件
柘植又左衛門代官所
備中国都宇郡
熊田村
庄屋
年寄
惣百姓

大一と唱候博奕
いたし候とも不相成
もの

七十二

右之もの共儀村内所之社地
ニ而大一と唱へ富ニ似寄候博奕

相續人ともの有之候吟味ニ相成
候ニ付不及沙汰候段不念ニ付
名主ハ過料五貫文ツヽ年寄ハ三
貫文ツヽ惣百姓共ハ村高ニ應
シ過料
此儀吟味書之紙ニハ書有之
も無之社地ニ而相續候儀ニ付
三笠附富突いたし候もの先達而定ニ
も難引當去ル卯年曲淵
甲斐守御勘定奉行之節

限伺之上此節申付候武州小
大島村名主年寄共儀
野非人共此儀村内ニ而差置ハ
慥境内ニ小屋掛いたし居
候もの一旦ハ追拂候又立戻り
候ニ付不埒等宿いたし置候
殊此儀非人無宿者之集
救度情實相續候ものニ付
候處ニ相聞候ニ付當過料申付
候ニ付上ニ而者心付方不行届

小増ニ付、右之方ハ運上料鐚三貫八
文、年寄ハ急度叱り置、御代官
所ハ運上料鐚三貫文ツヽ年
寄ハ急度叱り、惣百姓共咎
ニ不及沙汰

評議之上無之

松枝久兵衛御代官所
周防国織口郡阿賀
濱新田村
庄屋
年寄

惣百姓共名目ニ而しに而も
小前とものゝ

一件之内
代助
里庄清八
組合
惣百姓

右之もの共儀村内ニ而席料を
取、大一と唱富ニ似寄候博奕かましき
仕候もの有之を乍知吟味ニ相成
迄ニ不存罷在候段不念ニ付、庄屋
ハ過料五貫文宛、惣百姓共ハ
村高ニ應し過料

此段三笠附取退候ニ付当示
之々もの不定ニ而合同之由ニ付
候ニ付過料五貫文宛年寄
組合ハ同三貫文宛惣百姓
共ハ村高ニ応し過料

評議之通

享和元酉年 御渡 弐拾四番
火附盗賊改
池田雅次郎伺
一賊徒共召捕入牢申付七ヶ所之
之に一件

清水小姓組
山口和泉守組
黒田左京知行
相州鎌倉郡
岡津村名主
丈右衛門
外 壱人

村内之もの宅ニ而博奕
有之候を不存村役人

右之もの共儀 村内百姓十五人

宅江人集博奕宿いたし候処差出
不致候宿中いたし候ものより早速訴出
候中付方ゟ不行届屋等宗右既ニ
博奕宿いたし候段も不致宿主
候段不埒ニ付名主ハ急度叱り 但
頭ハ叱り
一 去戌去ル未年吟味之上不及
候池田新次郎支配盗賊改ニ
而武州西方村名主
儀右衛門年寄清右衛門儀村内

百姓幸右衛門宅ニ而去ル亥ニ博
奕いたし候処右拵〆 候
差出不致中いたし候ニ付右
拵博奕宿いたし候心得方ニ
而有之処名主ニ者早速差
候中付方不行届等宗右衛
儀不埒ニ付名主ハ急度叱り
年寄ハ叱り右村同吟味之上
同し色中上候例ニ見合
同し色名主ハ急度叱り 但既

ハ叱り

評議之上極

享和元酉年御渡　五十七番

火附盗賊改

岡部内記伺

一　青山無宿千蔵盗いたし候一件

日光道中

粕壁宿

名主

見川安右衛門

外壱人

年寄

吉右衛門

佐治右衛門煩ニ付

その惣代

吉右衛門

惣百姓代

善兵衛

村内ニ而博奕宅いたし候

を不存候村役人共押込

急度叱り

七十四

右之ものとも儀佐次右衛門宅江人集
博奕宿者ニ付一ト度寄合候節
成者役人共儀ハ年貢中村方等
采配之儀組合其外百姓共儀ハ
申合不行届ニ付皆者名主ニ者
過料五貫文宛年寄組合之
ものハ過料三貫文ツゝ其外百姓
共ハ村高ニ應し過料
此儀其筒ニ博奕打候ものゝ者
其村役人五人組村方之ものゝ内定

其余之者共ハ佐次右衛門吟味書
之趣ニ而ハ同人宅ニ博奕致候
候之一條之儀ニ名付過料貢
弐三百文程ツゝ取之候ニ付有之
多分之儀ニ居合候もの共ニ風
聞し博奕打ニ付候由詮議ハ
佐次右衛門存命ニ候得共様ハ全博
奕者之儀故急度之可相当之
之處ニ而其村役人村方共之儀
も博奕者之儀ニ付ものゝ名

主殿郎五人組村方共江決定ニ
見合伺之通名主ハ過料被
五貫文宛年寄并組合之
者同三貫文ツヽ惣百姓共村高
ニ応シ過料

評議之通渡

享和二戌年御渡　拾八番
佐渡奉行伺
一 佐州相川五郎左衛門町久次郎持
家質ニさし候一件

佐州雑太郡河原田
本町
又次郎店借
伊三郎

店内しよの借家いたし
しかもふ在来もふ
外店借いたしの

右之者の儀店借り又次郎借家ニ者
いたし候儀ニ付而者雖申ニ
身元も不相知借家ニ而者いたし
候もの迄不相糺店ニ差置候ニ

持之者共上之趣過料

此儀吟味書之趣ニ而ハ又次右衛門

簡取計之候様いたし候ニ付

去ル未年評議之節下ケ札ニ池田

駿河守殿盗賊改ニ而取計

ニ付武州砂村庄吉一件ニ而武

州西方村名主藏太並年寄

清右衛門儀村内百姓幸左衛門

宅ニ而支度之上取計いたし候

不届ニ付押束置ニ不及旨申

之ケ様之者共取計有之候ニ付

心附方ニ者有之度事ニ候得共

差出候中付方不行届ニ付

者之儀不持ニ付名主ハ急度叱り

年寄ハ叱りと相伺評議之上

伺之通ニ申上ケ名主ニ見合

急度叱り

評議之通

享和二戌年正月渡　三十四番

火附盗賊改

大河内善兵衛伺

一 音羽町森田屋新店鍋五郎悴要

にて〳〵以一件

音羽町八丁目

清次郎店

料理茶屋

伊勢松初年寄

後見

店善清

酒狂之上客二階

ニ而悴要江〳〵を

不及之

右之もの共依酒狂ニ而疵付もの

右同様有之候中少々なとも心得方

儀可有之処無其儀既博奕いたし
候儀共も家主として不埒ニ付急度叱り
此儀吟味書之儀ニおゐてハ寄合致し候共
外二階ニ而酒給いたし候段ニ付候
ニ付去酉年評議之上下ケ札致し
岡新内記火附盗賊改之節相
伺之本所尾上町清兵衛店料
理茶屋喜右衛門儀酒食給候処
誠之もの共二階ニ而賽博奕いたし
候処ニ右ハ不存旨申之

候ニ付而者右之通り博奕有之候上ハ
心附方も可有之処無其儀畢竟
二階之儀可貸ニ而已借せ置候ニ付
右躰之始末ニ到り候ニ可貸由松
儀博奕躰之儀見受候ハヽ容
之儀ニ而ハ逃去候ニいたし置候
其段ニ可仕旨申付方も不行
届故之儀旁不埒ニ付急度叱りと
相伺評議之上伺之通ニ申上候
見合伺之通急度叱り

評議ニ無之

音羽町七丁目
家主 清七

店子ともの博奕いたし
候を不存家主

右之もの儀店ニ差置候小八義助宅
ニ而多人集いたし博奕有之候
處兼而不存段申之候得共畢竟
常々申付方不行届心附方等閑
故既ニ博奕有之候儀をも不存居
候段不埒ニ付急度叱り

此儀御定書ニ無之筋博奕いたし
候ものゝ家主ハ咎外ニ有之候
處心附方不行届之筋ニ付
急度叱り

評議ニ無之

音羽町五丁目
名主 勝右衛門

右之もの儀支配内ニ而博奕
有之候ニ上家主ゟ上ニ博奕いたし

之儀当方ニ而承及之處申上候ニ付取扱方畢
竟共之中ニ付当方ニ而取扱候ニ付穏達
之場所ニ而申上候而ハ無之心附方等閑
成難く有難所ニ而ハ情実有之哉
立上も有之候得者難相成不
拘り付御免被成候
此儀不及返之候得者何之通
御免被成候

評議之通

何事茂捗取無不及数

安永七戌年御渡　弐拾四番
甲府勤番支配伺

一無宿安蔵盗働いたし候一件

一ツ橋領知
甲州巨摩郡小笠原村
百姓要八親
要蔵

悴文挟ニ候を咎候ニ
[illegible]置くもの

安蔵との儀癩病人ニ而方ニ無宿
安蔵板垣村宗左衛門方ニ候ニおゐて
其外取ゟ悴要八所扱之儀
請候所職ニ板垣村宗左衛
より候ニ而尤立合ニ而人様子何

並詮合も可承糺處無之候様
置ク候不届ニ付三十日手鎖
右儀併味書ニ誌之八癩病人方
ニ板垣村宗之清兵衛病人致ニ遣
之候ニ付の楽り沙之六ケ敷候
中掛ケ逃候ニ付八両取扱ニ付消候由
何之承候ニ付の彼是六ケ敷候
中逃ケ遣候ニ付八中宮之取扱ニ付
消し候ニ付其已後所在不知有
ニ右ニ通心得居ケ申ニ付訴合可
糺筋ニ付手続之処不行届村役人
ニ為申付可置処無其儀不
行届之段不届ニ付急度叱り

評議之通

七十八

安永九子年申渡　巳十二番

大坂町奉行江

一堂嶋米市場外ニ而現銀高同様之立会いたし候一件

曽根崎川上ミ口新築地
松安庄右衛門請地町
友金嘉兵衛　支配借屋
宮崎源兵衛
和泉屋
清兵衛

右之もの儀旅宿宅請集メ与兵衛
惣兵衛組合現銀高同様之立会いたし

之儀ニ相成候ニ付相返しヘく外ニ而候
不埒ニ付右者質借請候中買株為相返可
一
此儀中買株借請候以後他江ハ売ル
埒之商筋ニ而之ハ無之候仲ヶ間差障ニ相成
及斗ニ而者儀ニ付右株元他江ハ之ハ
以後共之儀入念可申付置候事
右儀ニ付右候段不念之者有之候ハヽ
置中買株ハ為相返候ニ不及此
以後定法之商ひいたし候様可

申付

評議之通

曽根崎川上之口新築
地
堂嶋新地壱丁目
右請地主
松安屋右衛門

評議之通

同所家守
右屋右衛門同家守代
友金屋加兵衛
青木楠之助代官所
摂州西成郡曽根崎村

御屋敷之内借屋
出来屋弓
宮脇源之進

右之者共儀借屋之者共へ新宅
米売買之儀差引致現銀商同
様之元引ニ而之ヲ以差売払申候
得共多分之儀ハ当所之御心得違
有之所々屋敷ニ而諸職ニ而御相借之
中買株取上ケ右衆中ニ而急度此
り置候ニ付御源之丞儀へ申渡
此段大坂町奉行所ゟ御掛合有之

処米中買之内不埒有之趣相聞不申
付右之之父ヘ名前ニ替不申候分
株之儀取上ケ品上之処松前屋
当親類共之取持ヲ以諸事之用
向相勤申候自然成先年ゟ常々
新地川岸之内ニ而百数十坪余間
相借之之御広三ヶ処御預ヶ屋敷七
畝歩三反浜地之内ニ而名加証文
名前之儀右相借地所名上ケ相成
代地之外地所不足立相成申候

渡し置候様取計無之場所ニ寄
ニ而右地面之代りとして前
書之上置候米中買株并借
受候米中買当人之もの江貸付株
料之内仕来ニ無之高ニ付右冥
加として証文へ預り置候株之年々差
上納分取和可受年先右之通
相願候ニ付願之上取上株札八枚
三枚貸渡し年々冥加証文相納
候処株借請人共之様相成候

相定右年限又付願冥加証文差免右
株主江引上ヶ置候上出候もの有
之株数可被差上貸渡候ニ付右株
之分証文又可差株以上貸渡候
以前之通冥加銀三拾枚充可相
納旨申渡置候処年限ニ随ひ
右相借株有之候得共請人ニ不及候ニ付
出候もの共相案之以借請候
町觸之候ニ而右之趣相願去ル
戌年寺社奉行代り相達し町觸

差出候後訴人有之候ハヽ毎度
右番所江出候様株札下ヶ遣し
候付定例之證文取置候由
中買共ニ然ル処借屋之もの共儀
宅米賣買之容引請現銀
高同様之取引いたし候ニ付不届
既先々願之趣中買一件之内中買株
しもの共申合不埒之儀有之候ニ付
過右之儀ハ相借之中買株ニ
上急度叱り置其外之者共渋之清

手叱り

評議之通

七十九

天明二寅年以後　拾九番

戸田因幡守伺

一奥州長子村名主兵馬儀隠吹企候

一件

本多弾正少弼領分
奥州菊多郡長子村
組頭清右衛門代忰
平次郎
百姓代
平四郎
名主兵馬婦
傳次右衛門

村内平兵衛宅ニ而
兄弟との立入候処
又ハ許出候の

右清右衛門平次郎平四郎儀名主
名主兵馬儀鋳銭隠吹企候風聞并

幾八宅内ニ而外ニ不見知もの共
右衛門方江立入候儀等聢与存なから
ハ所役人儀不見又ハ其筋ゟ可申出
役所江可訴出処相成詮議之上以
下手人ニ存分迄定リ可有之候段
心得違不束ニ付清右衛門手鎖ハ
急度叱り平百姓ハ叱り

一 儀次右衛門儀ハ右衛門并聢与存儀
心附見聞ニ相加り居候ハヽ村役人
ニ而下中出入いつ而役儀不束ニ付叱り

此もの共儀不束之筋有之候
ニ付清右衛門手鎖儀申渡候処
役人共ニも存有之急度叱り平百姓
儀次右衛門ハ叱り

評議之上済

寛政四子年御渡　拾弐
大坂町奉行
小田切土佐守伺

一御用雇廻船前貸銀之込ミ一件

御池通六丁目
備前屋
嘉次郎

右之もの儀未若年ニ而其上病身
殊生得世方諸事伯父市右衛門ニ任置
候儀ニ付同人并死亡仙助仕業ニ而
附之船者名前而已借し候とも
取扱出来候儀相成御用雇船之わ

當極船賃前貸銀請人仙助
市右衛門分ケ去ル卯御用出船松前
表ニ而差向始末不束有之候ニ付
急度過料三貫文
此儀去ル丑五月詮議之上申付候
一 小田切土佐守大坂町奉行之
節相伺之通道修町壱丁目加賀
屋与右衛門借家上向難立行
候ニ付讃岐屋手代ニ而多分伊兵衛
源兵衛妻人ニ而その仕業ニ而其の

取持ニ而櫨木有高金壱歩ニ中備一
主三歩ニ売渡又ハ質物ニ差入之
分も代銀取込ミ土蔵預置ニ入銀
無之振手形を代銀之代りニ相渡
櫨木買入之始末不相立候ニ付
速ニ取計ニ付その節ニ用向
承り候病気ニ付相成候迄
形も伊兵衛ニ預ケ置詮議ニ及候
置候趣右質地文振手形ニ
相も伊兵衛手前ニ而右手形を押取

先頃ゟ銭ニも不扱ニ及、依之頃
金船付之もの共請取構ニ罷在
米商人ニ而も追々相立ニ付捕ニ而も
別而ハ御会所売方ニ付大貫
方御買方ニ付而も代銀ニ代
り振手形を以穀木売買いたし
候ものハ相離候仕置宥恕之
儀ニ不及、金貨高ニ而掛 但本文ニ付
ニ而ハ右御評議之上過料銭
五貫文 但上ヶ処過料銭拾五貫
文 但本文候ニ付此段ハ例ニ見合
候ものハ猶御役方付伺之上可申
ニ仕置之上ニ而御役所方も有
之間敷候ニ付格別軽キ御仕置
ニ而ハ過料銭三貫文

評議之通

折屋町
小嶋屋惣作倅
和泉屋
伊兵衛

本文之もの前貸銀穀
ニいたし又ハ御用銀之儀
ニ付遣ニ立候ニ而不存
之もの

右之通之儀相方御用出船庭
出し一定請負候ニ付所左右衛
門ゟ申出船主庭人相願候ニ付
人共ハ病気ニ付所左衛門土手衛
ニ而私置ゟ其旨相与様子相分
兼候申ニ付右之儀既ニ初吉衛
船覚合居候儀ニ無之死亡仙
助ゟ五郎衛門衛ニ両純ゟ申私同人
所ゟ申上候儀ニ抜前賃銀
之仙助元市右衛門ゟ請負人分

少之八之儀遣ふ者ゟ所左衛門被作用
船定請負人之方分ニ等閑ニ
付し方不埒ニ付遣料ニ而文
此儀此儀書ニ致ニ付右衛
船主庭呂之様付し右衛門市
右衛門ゟ仙助遣取申ニ越人座
病気ニ付請申相對し儀ハ
五郎衛門ゟ相私置状気之上
吉郎右衛門一同申合十右衛門相座
同人船尺分ニ所越之義ニさゝの

も無添所滅ヶ應を被仰付請
病気ニ付出ニ不罷成ニ而居合人
増之者江遠候ニ付右居前
貸銀調達ニ請候而後々其
も無支有之者共ニ五郎右衛
江料置ニ出候ニ而病気ニ付而
士五郎右衛門江料置ヶ而
末不及候ハ不為来ニ付右居
候ハ前貸銀而候ヶ之無
支有之ニ逆是又五郎右衛門江

料ヶ置候ニ而家業も等閑ニ被
ー置ケ候一色ニ而不為かハ不知不
宜ケ有之料銭三貫文ニ而
事ニ而仕置ニヶ度十右衛門儀親兄
分ニ而致滅ヶ被為添ヲ被致越居候
ニ右衛門不居合ニ付情ニ相訳
而申如之者江遠候ニ而心得違
候而抜ヶ之不及之所走ケ不届も
内々有之調置之料銭五貫
文

評議之上決

長崎会所請払役
長崎本上町
高橋十右衛門

右之者儀先達而申上候俵物役
所ニ相詰居候処御用雇且船見分
いたし候ニ付船借船宿其外手続
以外且船盗太右衛門船ニ申合候段不
心得ニ付上遍ニ右衛門船抱別而
申之節船借受請負人五郎左衛門

俵物役所ニ有之極印盗出し
右衛門船之船具ニ打封置候船見
分相済之船之姿ニ致隠置候旨
見届不存之所立之段不届ニ付三
十日押込

此段吟味書ニ記置候ハ右衛門船雇
之者共詞違ニ相聞候上ハ支配勘
定江見分新規ニ申付置候得共
上船見分之上所職之者船も丈夫ニ
相見船具等損有之由ニ付

外国船其外備船ゟ申偏候
ニ而心得違候者共ニ而漏落有之
候ハヽ吟味之上當所仕置ニ可致候
物候ハヽ右諸品差出候ハヽ極
節其品を請盗出し候とも其
所差上ニ及候畢竟心得方等宜ニ付
候ハヽ不宜ニ付相伺之通三十日押
込

評議之通

寛政四子年 大坂 三十三番

大坂町奉行伺

一銅売買之儀ニ付不正之義有之
——以一件

南問屋町
塩屋
佐次郎

御用銅引請ヶ等ニ付
手代へ任セ置候もの

右之もの儀ハ商売向ゟハ遠
御用銅之取扱ヶ上ニ而縦令年
二付手代江任セ之儀不宜取方
等之儀別ニ入念請ケ撰等之儀
無之様可致筈之処等之儀ニ而者

年〻上ヶ来候處病氣ニ而定之儀
源之丞儀出精不仕候ニ付去午ノ秋
末ヶ年所生ノ酒金為申之扱差
手代共江申付方不埒成之段
ノ儀不埒ニ付陣屋ヘ召收職取
放不埒ニ而相不都合之上五十日押込
此儀去ル卯年曲渕甲斐守町奉
行ニ而手限伺之陣屋申付候
一 同
修理亮支配蔵方御用達梶
川清左衛門儀病氣ニ付御用

之外万端手代蔵方儀ニ任セ置
蔵方之儀ハ解之節當田舎ニ
不念ニ付銀蔵之金蔵代金ニ
借請在所ニ而賣拂徒用ニ
之儀も不存候とも為し申付方
等閑成之儀ニ有之不埒ニ付庄
之百貫徒五上ヶ百日押込申
付ニ付儀ハ見合此上ノ儀ハ去
亥年拾六歳ニ相成之儀ニ付為
之申付方等閑成之儀ニ付雖

中詰之病気ニ而服薬無遠慮
少ニ相成候不埒之廉ニ而不相
ニ綱ニ而紛失不致不相成儀差上
巳十月　押込

評議之上済

寛政八辰年申渡　五十番

京都町奉行伺

一　冨実同様ニ取計ひ候一件

新烏丸通川上ル町
松坂屋市兵衛借家
桝屋孫兵衛

実同様之儀ニ用ひ
薬ニ不存製法ハ
無之ものゝ

右之もの儀西村主膳方薬法中誠丸
薬製法之儀相続ニ付六ヶ度都合
拾剤製法ハ了世代相続之拾目請
取候処右寺岩間寺観音霊薬并守
護弘御免有之候ニ付主膳儀右製

八十二

法ニ而ニ一等ヲ九等迄重キ罪ニ相用右
之外都而寛突同様之取計ニ而ハ
ヶ條ニ不相当中之ヶ條有之候存候様
等種相違ヶ有用方も相紀制之法
ニ而ニ一旦可書処無等ニ而條候不念ニ付
急度叱り

此條ハ御預ヶ不念之御咎ニ而不届

伺之通急度叱り

評議之通済

寛政九巳年御渡　午ノ七月

大坂町奉行伺

一　安治川南弐丁目淡路屋徳兵衛
借屋大津屋利右衛門難船荷
物之隠売拂ひ一件

紀州牟婁郡日和
添村
大庄屋
東幸之亟

同郡周参見浦
庄屋
十右衛門

破船荷物取隠シ
之不届もの

右之ものとも儀利右衛門ニ頼ミ難船

壱ヶ八十八ヶ所ニ而毎年ニ之し始
末吟味ニ相違無之候ハヽ其外之者共
遣シ申候ハヽ先年ニ而右之者共ニ宜相揚
取ニ而銭雑用ニ致シ子ニ及ひ候ハヽ度
流失ニ而銀利五文中立ニ而荷物ニ而
同人預置ニ而上納金取方ニ付候
儀ニ而相成候十貫文ニ付候節ニ而病気
ニ付名代ニ而為差出し候ニ付ニ付
浦役ニ而儀ニ付万端ニ付手抜ケ中
合方無之如何ニ而候既ニ為儀新

壱ヶ八十八不足ニ而毎年ニ之し儀
右分十貫文ニ而儀ニ中呼合候
打之候而者宜討無人ニ而調候之し
ニ浦手形ニ流失ニ而荷物ニ而取戻シ
相違之し仕候ニ相成ニ而候幸
右之ニ而重役相勤十貫文儀ニ付
御役ニ而申分ニ而心得方不宜ニ付
幸之貫文ニ而之料拾貫文十貫文
之ニ而之料五貫文
此儀不行届不念之段ニ相成候

一通之不並ニ付不正宜ノ留幸
之旅籠ニ付過料銭五貫文十
旅籠ニ付同三貫文
評議之通
同郡周参見浦
肝煎
作次郎
被取計方ニ候ハヽ
其外存之候の
右之もの儀難船之節ニ病気ニ
而場所之様子不存候とも新五
郎八十八立合売払ノ荷物ハ剰
其上存置ノ不存之儀不取計
ノ段浦役人共ノ身分ニ不相応
勤方疎ニ相聞不束ニ付過料三
貫文
此儀一件之内幸之旅籠ニ足合
不埒之趣写調候過料三
貫文
評議之通

寛政七年御渡 四拾六番

大坂町奉行伺

一播州東條村嚴四郎後家子木

稗賣買いたし──候一件

酒井雅楽頭領分

摂州加古郡西井

村

伴右衛門子

七右衛門

悴子木稗を抜く

右ふ右との

右之者の儀悴七歳候ゝ子木稗

木抜ヶ候右ハ不存ゝ所九回居ゝ稗

右外後家子木稗抜賣拂ゝ候也

八十四

不存ニ付穿鑿いたし出来申旨申候
也
此儀吟味書ニ記有之件十七歳
惣百姓共ニいつし曽高之ニ而絵図
并本拝木抜ニ致居宅ニおゐて
拝領ニ木いつし一同儀見分及ひ
ニ儀無之吟味ニ相成被仰付
ニ有之金子本拝木抜売拂候儀
並不存之ニ而心附方不行届ニ
付伺之通急度叱り

評議之上相決

播州揖東郡
東保村
外四ヶ村
家主
庄屋
年寄
組頭

村田之者共本拝
抜取候之者共之

右之者共儀前々御渡之儀有之
候村方ニおゐて絵図本拝木

抜文ニ壹貫四百[illegible]の有之也
小林ノ所主ノ庄屋ニ成ニ付家主
庄屋ニ定料三百文宛年組頭ニ
負候也
此後家主村役人ニ付村田との
小木拝 抜文ニ壹貫[illegible]
無之小林ノ所主ノ不為定ニ付家主
庄屋ニ負候也年寄組頭ニ
也

評議之無御

因人ニ而訴ニ之との逃去又ニ
異変不有之無之存ル

八十五

等閑ニ而囚人立逃いたし候段
安永三午年御渡廿一番
御勘定奉行
太田播磨守伺
一下総国高谷村光妙寺留守居
知無之及殺害候一件
午八月廿日御渡成候太田播磨守
相伺候下総国高谷村光妙寺留守
居之儀知無之及殺害候同村平七出
立逃候一件之御同高谷村名主十郎兵衛
清組頭茂左衛門妻人共過料ニ而

御ヶ処十郎兵衛年七ニ歳源蔵出雲

逃｜｜江上ル尋出ヶ茂左衛門

出雲ニ乃蔵主一度ハ年七返召捕大

坂人之源蔵主ニ而右兵衛源蔵乃

右又ゝ之逃｜｜ゝ候ニ付兵穢語

私共ハ右ニ而ハ紛ニ十郎兵衛と

一茂左衛門儀外ニ無之惣而有之候ニ付

兵ニ付評議仕候中上ル旨相

申ゝ以

此儀十郎兵衛儀ハ年七ニ歳源

蔵主而逃ヶ之ものゝ内蔵主御預ケ

置ヶ之ものゝ蔵逃ヶ之ものゝ尋中

付ニ而召出ヶ候ゝ之料ニ而定ゝ

誰し之料三貫文ずゝ申ゝ遣

右ゝ勿論茂左衛門儀ニ在所ゝ

蔵主ゝ候右右ニ宝暦十一巳

年秋之但馬国在所尋ゝ

茂ゝ申上ヶ候趣ニ前ゝ仕

其ゝ共御不吟味ヶゝものゝ

御清ニ而知ゝ候之親類村

役人ゟ日限尋申付其節於
請候も何書ニ認候ハヽ名主
十日之内ニ者別段尋申付
ニ而名主其者ゟ過料銭三貫文
ゟ其何人儀ニ而も相欠候ハヽ
名主ハ過料銭三貫文ニ而相済候
其外組頭名主組頭一同ニ尋
申付候節出不候ハヽ名主之
料銭三貫文申付組頭ハ過
名主叱り置一同ニ申付事

人百姓名主十日之内ニ者過料銭
三貫文名主ハ過料叱り置
其外相済申付ニ名主候
其外ニ而一名ハ平七郎名相
五郎兵衛左衛門組頭之
ニ而十日之内ニ者ハ過料銭三貫
文名主ハ過料叱り置
組頭候済て役料ニ七日ニ

評議之上無滞

安永五申年御渡　拾八番

山田奉行伺

一寄者出奔盗いたし候一件

勢州度会郡
宇治本町
多三郎粉屋
新兵衛方江出町内より
附置人
当人
伊兵衛
外　壱人

右之もの儀新兵衛逃去候

寺場之店会不申不残不案内ニ付急

急度叱り
此儀吟味書ニ顕候一件之内
伊勢太兵衛外三人ゟ盗ミ合宿江
支度ニ致候内夜ニ紛無宿逃去候
百敲
山田能登守知行所無宿盗賊共
御吟味一件之内当人六人之内
一 備前無宿庄八外壱人共不残召捕及刑
罪哉之候得共無宿庄八
此儀無宿者當人共六人之番

仕候百敲之上ニ而入墨申儀ニ無之
無宿逃去候節ニ付壱人ハ不相済
百敲ニ而及申間敷哉と評議
仕候儀ニ御座候然ル處前書之趣
然ル處前文評議仕候処教書之
識ニ付支度ニ而ハ無之事ニ出処
無宿之上之を以代合之返支
度候ハヽ可候等閑ニ御座
可伺上而叱り置可申哉と奉存
再評議之通

安永七戌年ゟ渡　壱拾壱
大坂町奉行
京極伊豫守伺
一出所不知庖刀売買一件之内郎
ケ〻〻の首縊相果候一件
京東川崎倉東江入町
菓屋茂九郎下人
源助
外壱人
郎ケ〻〻の首縊
御仕置書入有
右〻〻の取扱書〻仕方不行届
郎ケ〻〻の首縊人ニ出所不知庖刀
所持不埒ニ付度々罷越日数二十
八十七

日究手鎖
此者去戌九月晦日伊兵衛并源
兵衛儀大坂町方役所江相願候趣
之家出訴一件ニ付大川町
米屋太右衛門同町近江屋清
右衛門支配借家綟屋源兵衛
当ニ付出所相応銀子貸之
一 此段家出致候女人ハ不埒ニ付
ハ頃九右衛門無之候ニ付差控候
ハ頃ニ付右衛門家出ニ付候ニ

清左衛門方江預ケ置候処
源兵衛儀三十日手鎖ニ申上候
其外源兵衛例有之ニ付其外源
兵衛同様ニ不埒ニ付清左衛門并
人共三十日手鎖

評議之上決

右東屋岩九郎組合
百足屋
嘉兵衛
外 訴人

銀子之首尾ニ
とふ成当人の組合
手当有

同町年寄
茨木屋
小左衛

右之もの共儀源助伊助当申安
左衛首縫ニ候等閑成し儀不
埒之上達候ニ付年寄ハ急月三貫
文過料組合之もの共ハ急度
叱り

此儀前書錺之もの家出付
一件ニ而大川町月行事源内
屋伝七紀前屋左助儀月行
事ニ付而ハ上ニ疎略無之
様て仕ニ処米屋太左衛門儀屋
源右衛門中不念外次郎右衛門
致家出ニ候等閑成し儀不埒
ニ付急月三貫文宛過料可申
付猶ニ候相伺謹儀之上急度
叱り之上上ニ而過料ニ而御例ニ之
今年寄ハ急度叱り組合之
もの共ハ叱り

評議之通済

八十八

安永八亥年申渡　子拾番
大坂町奉行伺
一無宿楼屋ニ而弥助船囲を抜出
荒牢内ニて女を殺候一件

冨海部町目末屋
清兵衛
九市屋善兵衛支配
備屋
渡海屋
嘉平次

右之もの儀諸人船請屋仕ル上
支配領ニ而水主ニ引続請負
入念呼下処船囲を破荒かけが候

の儀不埒有之候ニ付心附候孫助
十右衛門抜出候迄不存罷在候段不
念之儀ニ付過料三十日押込
此儀寄領ニ水主ニ見合不埒ニ付
ニ吟味書朱書之内、享保十
六年七月隠岐島ゟ流人船ニ
抜出候節船主原人外ゟ沙汰ニ
無之候ニ付上ニ者無構船請負證文ニ
流人召放ニ付して尋中付
過怠出シ文限も隠有之ニ付上六

押込ニ不及急度叱り

評議之通

南尾張町布屋五兵衛
清支配
借屋
池田屋伊兵衛同家
三郎兵衛
外
訴人

右之者共之儀孫助方江罷在宅ニ
切り抜切候ニ有之候然及取
会押包罷在候ニ付六ヶ年之内ニ
孫助家等ニ者之者々年迄

継切ニ拮かゝ祢を引入〆殺ス迄
ニ不及候得共牢舎いたし勤方等
宜ニ付心得違候得共より宥免ニ
場ニ付候得共百三人与三十日宛ニ
鎖
此儀別紙之通見合捨置不相應
之儀ニ付候得共手鎖ニ不相當
之方可然哉三日押

評議之通

例

土屋越前守懸

非人頭善七手下
谷中日暮里村非人
小頭ニ而附駒込田
中藤右衛門村非人
小頭三右衛門方ニ居候
同人悴
喜之蔵

右之者儀横目相勤因人ニ附
添人足ニ非人人足を別ニ入置候
中付処右之儀頼候ニ中付置候
手前入墨之市ヶ谷孫助出去

居六月十四日吟味ニ而当役所江
呼出ニ而落付之の様見ニ而連出
孫助を召連レ候而召捕ニ出府
吟味伺之上宝暦十一巳年被遊
致下中村之の者共非人之儀ニ
付右ニ准相当之仕置申付ニ付
穢多頭浮右衛門江申渡引渡之
人

白壁町岩田屋清次郎
借屋
平野屋利兵衛同居

沖船頭

茂八

右之もの儀舩田捉前かけニ而孫
の注不耳き有之義と心附孫助
十左衛門接出しを不存居在ニ所
ふ無之に居く松丸妻人立退之道
筋を心見ニ脱捨置ニ草履を
見出し候を慕ひ非誠ニ而当
り彼是方便を以連帰り稍又於
舩田之内ニ孫助申聞ニ而蔵も同

迄之科ニ相諌も構も遁寧
領之上ニ而穐ニ申渡ニ付而ハ有
也行届候儀ニ付出居可申候ハ
以不及答
此段前書渡海居ニ而在次因
様之科ニ而在候得共訴御中
右衆へも申宥連場ニ而候
此儀御ニ而相伺之上ニ答之ニ
及沙汰

評議之通

八十九

安永九子年申渡　拾貫
大坂町奉行伺
一条番出橋ニ而十歳位之守捨置候
　一件
南堀江町河内屋武
右衛門借家
京屋
伊三郎
右之もの儀清御使所ニ而も有之
之殊焼失之居候ニ付儀ニ而十歳
位之子守中井久保銀附
孫居ニ而も心得ニ而在十歳位

抜出候節之儀ニ而者銀無之遠わ
聞候得共一様ニ出奔躰ニ付
可致立心附候当人ニ無之分
不埒ニ付以前之通大坂三ケ所構
此儀牢抜出候とも有之節ハ
牢舎人中追放之御定ニ付
座ニ置候とも中追放ニ而
一 相当可然候得共十五歳ニハ
久次郎儀頭取ニ而も可付渡御
役不届ニ付中追放ニ可被燈也

尺七ハ四十歳ニ而迯去候ハ雅楽
相成金次郎ハ甚蔵之外
しかしも事起り候儀ニ付も
之不届ハ金次郎ハ又吉座置
伺之通大坂三ケ所構

評議之通済

九十

天明二寅年十月渡　拾三番

火附盗賊改
贄越前守付

一　籠屋ゟ囚人立逃候一件

本石町三町目
目明し
七左衛門

五人組
吉左衛門

縄主
平七

籠屋ゟ囚人立逃候
逃候町役人

右〻之者共儀當二月廿五日夜
堀帯刀組与力〻〻之四谷南伊

船町安兵衛店善兵衛方ニ居候
八右衛門と申もの右捕方之もの江預置
候處立退候段申出候ニ付手当いたし
始末吟味仕候処馴合立退候ニ紛
も相聞不申候ニ付日限尋申
付置候得共今以尋出不申不埒
ニ付七右衛門吉兵衛ハ過料銭三貫
文ツヽ平七ハ三十日手鎖申付候
八右衛門弟次郎右衛門出候ニ付永
尋申付

此儀預ヶ置候もの立退候ハヽ
右之もの尋申付不尋出候ニ付過
料ト有之御定ニ候得共七
右衛門吉右衛門ハ過料銭三貫
文ツヽ申付平七ハ縄ヲ掛候ニ
無之不埒ニ付過怠三十日手
鎖申付候八右衛門ハ永尋
申付

書面之通申付ル

天明三卯年伺　拾六番
大坂町奉行伺
一主人掛之金銀盗取候一件
農人橋壱丁目
美濃屋
喜兵衛
外壱人
評議置候もの自害仕候
ニ付上井戸江遣し候不
及もの
九十一
右之もの儀者人之金銀盗取候ニ付
付ニ利兵衛自害仕候ニ付不存候
上井戸江遣し候ニ付不及沙汰
而始末三十日手鎖

佐渡宝暦十辰年土屋越前守手限
伺之上於外申付ル難波町家主
長右衛門外弐人儀忠七妻背縁ニ
所怪我ニ付検使之上忠七并
親ニ之処忠七儀居宅續土蔵ニ
而首縊ニ而不存ニ罷在趣踏溜居
候儀も無之不埒ニ付過料銭三
貫文ツヽ申付ル例ニ可成過料
銭三貫文ツヽ

評議之無之分

天明四辰年伺済 御書
清水殿先例
一下総国吉田村七左衛門ゟ差出候跡人
一件

清水領知
下総国豊田郡太田村
百姓七左衛門組合
百姓
仁左衛門
外 八人

村役人ゟ之書付ニ而右
七右衛門雪隠ニ付縄仕候
縄張出候ニ付差越候ニ付
ものも

右仁左衛門次右衛門儀村役中付置候
百姓七左衛門畑下一所之雪隠
之義ニ付七左衛門ゟ差出候縄之

手放七右衛門を立退候上同人儀
兼而日限等申付置候処度々日延
之上不尋出候者不屆ニ付五人
扶持十日手鎖

此儀去ル戌年桑原修蔵より日限
相渡し上候処申付候処常州上小
津田村忠助親右衛門清六変死
一件之内秋山八郎兵衛同村五
七外八人儀上小津田村右衛門清
を殺し金子盗取次第召捕

縛り置番致候処被立退
候段不埒ニ付九人共三十日手鎖
申付候例ニ見合此もの共ハ七
右衛門義兼日限等申付置
候処不尋出不埒ニ付而
押込を申付候上過五十日手鎖

一 甚右衛門清右衛門勘右衛門友吉
清五郎儀七右衛門番ニ付候処
受溜ニ罷在候一同隣組之参
七右衛門宅ニ差置番いたし一同居

賑七右衛門江取迯候段不届ニ付
三人ハ三十日手鎖
此段前書例之通相伺之通五
一人ハ三十日手鎖
一五右衛門平八儀仁右衛門治右衛門一同
七右衛門召捕候ニ付附添居
候處縄を手放七右衛門を迯
し候段不届ニ付五人ハ三十日手鎖
此儀前書五右衛門外四人同様
之儀ニ付伺之通五人ハ三
十日手鎖
評議之通

天明四辰年御役　拾弐番
大坂町奉行伺
一　御出米積立ヲ積り運賃銀前
貸請ヶ出米不積立一件
小堀数馬御代官所
摂州西成郡
九条辻町
綿屋嘉兵衛同
家兄
庄兵衛
銀ヶ之もの〻書ニ
右雇主遣しれとの
右之もの儀手鎖銀ヶ之もの当人ヘ
銀雇附添之者立合遣ニ取扱ニ
御雇ハ過料三貫文
九十三

此儀去ル酉年東京伺録ニ而手限
伺之上過料申付候武州多摩
入間両郡村々ニ而右京大夫殿
家来共立合捕ニ盗賊小野
条右衛門一件ニ而武州入間
郡小野村百姓市郎右衛門外三
人儀村内百姓共ニ差添三手
廻右京大夫殿家来より村
預ケ申付候上ニ而雪隠ニ而くゝり
候ニ付別ニ不心附処一同附添
居在候迄ニ而不埒ニ付四人江過料
銭五貫文宛申付候例ニ見合伺之
通過料銭三貫文

評議之通

九十四

天明六午年御渡　拾三番
大坂町奉行伺
一婚礼之節石打いたし家大勢ニ
会家財等打損し一件

一橋領知
播州加東郡古川村
百姓
利兵衛

右之者儀娘之もの聟ニ取候処
同月分ニ十歳之時親ニ離候方ニ
養育いたし成長いたし候ニ付以前
居八兵衛ニ而遠対之左近養来

遠ゟ寄之ものと不存出会候と
可親之ニ付預置候様可致成ニ取
等閑成儀ニ付不埒ニ付過料銭三
貫文
此儀不届之ニ付寄之ものと之
取逃ニ候ニ付候品差戻度
叱り

評議之通

寛政四子年 御渡 拾弐番
大坂町奉行伺
一 長崎表ニ而唐越唐物売買
之儀ニ付不埒之取計いたし候一
件

北久宝寺町壱丁目
紗屋七左衛門下人
弥助
外 壱人

右之もの儀町役中付置候処
十郎義中同人儀右之仕方ニ乍
書状相認候を其侭右之仕方ニ

九十乙

乍恐並同人名前ニ而長崎ニ罷
立ち格子ニ而在居并ニ候金貸諸
等閑之儀不埒ニ付度々過料五
貫文宛

此儀安永七戌年御詮議ニ付下
ケ札之儀長崎吉郷村ニ而同様ニ出
候ニ不及候町ゟ外之者之人
役酒屋平吉手鎖町預ケ
当人ニも御詮議在之三浦友
次郎後与吉親子手鎖ニ而密談

以之人参并取扱ニ而も受在
上ハ当人之證拠ニ而不埒之息
度叱り置可申訳ニ候相伺
候趣相済候例之又会所ニ而
之旨諸可及人ともゝ叱り

詮議之通済

九十六

寛政四子年申渡　弐拾弐番

京都町奉行
菱紹下野守伺

一当時無宿依岌斧八盗いたし
候一件

西洞院松原上ル町
大和屋又兵衛借家
高瀬屋伊助

右之者無宿依吟味ニ付差上
可為中村置ニ及處亀屋嘉兵衛借方
手酒之儀酔被覚ニ而中略
其後吟味中ニ候とも相当太禄

之儀無之相別之心を附ヶ不相済
置可申旨無之儀右及始末人
候ニ付無之急度叱り
此儀ニ付無之上ニ而ハ取計可申候間追而
急度叱り置可申処病死いたし
し候ニ付追而申上ル迄ニ而者可
在候一件之ものニ付可申渡

評議之通ニ而

寛政五丑年 申渡 五拾三ノ義
大坂町奉行伺
一 出火不正之筋抄云扱ニ出来一件
橘町
住吉屋政右衛門支配借屋
有田屋
新右衛門
外 壱人
当ハしたしもの外之
文言ハしたしもの上ニ而
ものの
右之ものとも儀又七郎中次右衛門
方ニ而誘ひ出相廻り娘共ニ而
持ニ罷出候ニ付相子ニ心附候

在之候婦人之身分ニ付引居所
并　不束ニ付御叱り
此段去子年評議之上下ケ札之趣
〆大坂町家持和助相手与兵衛
町壱丁目錺屋長兵衛下人孫
助外壱人儀同町新助方ニ召置候
十郎書中同人儀吉兵衛方ニ
差置候書状相認頼遣し候
以儀兵衛方ニ而持参同人
名前ニ而長源之忠兵衛立ニ而様子不
存居在之候金子受取候方等
不埒之儀不届之済候ニ付過料
五貫文ツヽ之和評議之上
婦人者叱り之中上之上和海
〆例之見合無之婦人者叱り

評議之通無御座

同町
紀伊国屋文七家主
大和屋
喜八
外
五人

甚ハ右之外ハ
文通ニ之申之不存
之の

右之との儀[九]郎中付ニ而又七儀於牢
舎吉左衛門書中次左衛門方江文通
いたし候殊更不届至極ニ付遠島
申合疎成候儀不念ニ付一同叱り
此儀前書大坂町次郎右衛門
一件之内小山五郎町壱丁目吉
野屋庄十郎兵衛主請人長兵衛
同外四人儀庄十郎町部中付
置候ニ付孫助儀左衛門妻并庄十
郎儀吉左衛門方江対し不埒之状不届

勝手ニ処於儀吉左衛門方江可被差
し同人并前書長兵衛江差置
候様子不存旨申候得共不念ニ合
疎成致し候儀不埒ニ付右五人
但過料三貫文ツヽ年寄ハ
五貫文申付其家主并五人組ニ者
存命之内請候過料之貫文と
相伺候儀之上一同叱り与申上
右通相願ハ例ニ又合伺之通一
同叱り

寛政九巳年申渡　六拾九番
長崎奉行伺
一　異宗信仰致候者御仕置之儀ニ付
一件
高木作右衛門御代官所
元肥前国浦上村
隠居
当辰五拾
吉右衛門子
松右衛門
右之もの儀先年村方之儀ニ付
一　去辰五月五日立帰候外之者共と
同所五島村里郷表江罷越

九十八

評議之通

迯囚人之妻ニ隠置其上病人ニ仕立候
者共迯去候ニ付而ハ不届候得共
其品ニ寄過料銭五貫文
此儀一件ニ而重立候例ニも有之
ものハ見合此外ニ而ハ分ケ書
人ニ而隠置候ハヽ不宜候ニ付何レ茂
過料銭五貫文

評議之通

寛政十午年御渡　四拾壱

甲府勤番支配伺

一 無宿医者盗并牢抜いたし候
一件

御代官川崎平右衛門支
配所
甲州山梨郡等々力
村猪引
牢舎人
巳之助

右之者儀去巳十二月七日牢内入
口番内八日内不知入口外ニ罷出
八ヽ囲内ニ而品々致心附可申処

無之候迄人中合牢抜いたし候
山友田人ゟ驗立候ニ付心附殊出
之候不埒至極ニ付三十日手鎖可
申付処既ニ入牢ニ付令宥免
申渡ニ不及沙汰
此段去ル酉年評議之上申下ケ相成
右日光奉行ヘ相伺候　柾木大隅守
一　牢抜いたし候一件之内　因幡州
那賀郡穢多町穢多次治
外壱人候牢出奔いたし　柾木大
因幡牢守逃去候翌日牢番
共不絶心付見廻ル処寝入候
番人眠リ居候中致変事有之
百姓共支度致し　津田大
隅守逃去人共ゟ不在候ニ
付穢多御咎不埒ニ付五十
日手鎖ゟ相伺評議之上三十日
手鎖可申付処穢多ゟ候付
支配之穢多頭へ引渡手錠
申付可申付旨申渡可然哉

与申上候無構例ニ見合三
十日手鎖申付外日数入牢之
ものニ付伺之通令宥免候ニ
不及沙汰

評議之無滞

寛政十午年差越 未四月
長崎奉行伺
一 肥前国唐津呼子浦下松屋重
助初筆金銀潤色候一件

長崎西濱町
作平
外壱人

右之もの共儀組合源兵衛町頭
之者共致居眠ニ付同人致外
出候迄も不存眠妻人ニ於之

不埒ニ付安人共急度叱り
其後売申候葉茶渡世之
勘定奉行ニ而ハ手限相済上
伺済ニ付武州足立郡千住
小塚原町猿亀屋清之請
身持不宜七右衛門ニ預置候上六
他出不致様入念心附可申
処不快之趣等閑ニ候し候ニ付不届
七右衛門他出いたし候段五人組ゟ
口論致候ニ付始末相糺候処

不念ニ付急度叱り置候ニ付
足合伺之通安人共急度叱り

評議之通

百一

享和元酉年御渡　四拾二番

浦賀奉行伺

一元西浦賀谷戸町平兵衛忰平六

ニ而為付候者宿安兵衛盗いたし

候一件

西浦賀田中町
利兵衛
外三人

右之もの共儀平六宿安兵衛方牢

番ニ罷出相互ニ心付急入牢不致

更右安兵衛牢抜いたし候儀

不夜庵左之掟ニ不埒ニ付過料銭
三貫文ツヽ
此儀天明乙巳年秦京侍従縁ニ而勤
定ちら勤役ニ而手限伺上
此節中村ノ上納出成東村百
姓利八権六儀右姓役ニ而出書
了ーー此上ニ而無油断心附可
申処一同寄合入念平穿鑿
之処ーー取之ニ而不在之候ニ付不
埒ニ付五人ゟ過料銭三貫文

中付ケ例ニ見合伺之通過料
銭三貫文ツヽ
評議之通

百二

享和二戌年六月　卯拾貳日

火附盗賊改

大河内善兵衛組

一本石長器町店ゝ卯兵衛店　長兵衛

右之者ハ道心者ニ而博奕いたし

〆此一件

本石長器町

店ゝ卯兵衛店

長兵衛

右之ものの儀道心者ニ而其上致し候ニ付、他所ニ而しろうと家主ニ而も

慶平處ニ而其儀心附方等宗

相既ニ右宿寺中ニ罷在候処他所ニ
所誠博奕いたし候以始末ニ至ニ不
埒ニ付急度叱り
此儀天明八申年東京作領ニ
御勘定奉行え相伺之
上済然ル中ニ付武州千住小塚
原町稲荷亀屋清蔵方
仍而介七五郎と申者中ニ有之
上ノ他出ニ而毎度相尋候へ共
是不相挨ニ迄等閑ニいたし
候七郎儀於いたし候所右之者
及口論ニ相成末ニ打擲ニ及ニ
至ニ付急度叱り置候例ニ見
合伺之通急度叱り

評議之通

隠賣女有之趣而召捕

安永八亥年申渡　七部拾壹

甲府勤番支配伺

一隠売女いたし候一件

元大岡十蔵
当時岩松直右衛門
代官所
甲州八代郡二ノ宮村
組頭
傳右衛門
外弐人
百姓代
勘右衛門
外壱人

右之ものハ御神領地之御代
村田相模守殿ニ而隠売女ニ有
者ニ而渡世中ニ付相手畢竟同村
之義ニ付差添之御代官吉田源之助方
ゟ書付差出し候ニ付可心得
候ニ付御咎之相頼候三人ニ而過
料壱貫文ツヽ可為代納人ゟ取之
此儀ハ隠売女隠者
差置候ハ者ニ付定之成五人
組之料ニ而候事者三ッ之料ニ
有之ニ付見合此もの儀ハ隠売
女ニ有之ニ付不存者ニ有之候ニ付
代官ゟ隠売女有之候ツヽ申
出候ニ付書付差出置ニ不及
候ニ付右様之儀ニ付組頭
八右衛門定之人数ニ准し過料
銭三貫文ツヽ可為差出ニ相
為成者也

評議之通

寛政二戌年申渡 四十一番
大坂町奉行伺
一堺奉行組同心悴町人を切殺
又ハ手ニ疵為負候並隠売女
いたし候一件

堺南糸屋町
糸屋次兵衛借屋
今林屋
弥一郎

貸座敷株ニ而定之人数
之外女差置候ニ付
右之通

右之もの儀旅籠屋株借置
ものゝ内定法之外ニ働女召抱
隠売女致渡世居候不届至極

服株之儀前々ゟ高ニ致方等
冥加之儀ニ付右之料拾貫文
此儀吟味書之趣ニ而ハ不相分候ニ
一体堺弓場町之旅籠屋八
十八ヶ所貸置此ものハ当分屋町
之儀其外之もの之隠賣女同様一
躰之もの之家主抔とも致之遣
候様ニ八十八ヶ所定法之儀堅相
守候様毎々為申付置候上
ニ而八十八隠賣女有之候ニ一旦罷不
存殊在之迚不届之筋ハ無之
座候間無之様
評議之上返済

寛政四子年六月　弐拾弐日

京都町奉行

菅沼下野守伺

一当時無宿佐兵衛八盗いたし

候一件

七條新地下三之宮
町

年廿才　惣之清

三人組　三九郎

支配下抱女分九兜外ニ
右稼業いたし候ニ付
有之の

居候之者飯外屋幸之助加賀

屋平助ニ抱女商売為致候

百之

同商賣人之外ニ而も抱女九兵衛ニ
差置候由ニ付置候處去和
泉守様御屋敷へ幸之助儀
同人方抱女そのつ義度々抱女
働ニ付丹波屋嘉兵衛儀も幸助
方抱女きん預り置抱女働ニ
付又者嘉兵衛方ニ差置候段
一 貧ニ而差置候由ニ付同所町役之儀
ニ付其者共ニ付儀無之趣ニ
心を附可申処無念之儀等ニ付

之彼方不埒ニ付懲之為過料銭
三貫文宛ニ而同三貫文
此段蔵浦下野守別紙中上
ル難波町仁兵衛外壱人ニ而茂
之例ニ見合何之通懲之為ニ
過料銭三貫文宛三九郎ニ同三
貫文

評議之通済

七條新地下三之宮町
越前屋吉兵衛
家代
清七

店内ニ隠売女同
様之儀いたし候
者ニ有之もの

右之者之儀抱女高売一揚不
之訳柄新之外難相成処大
和屋吉兵衛丹波屋嘉兵衛借
受候屋吉兵衛家宅ニ抱
女高売人外屋幸之助ニ候同
人ゟ抱女そのつ数度之抱女働
為致嘉兵衛儀も同高売人加賀
屋幸助方抱女手元へ預り置抱女
働為致又ハ吉兵衛方ニ差遣候
上ハ当時不存吉中之ヘ相成趣
無之儀ニ付候者共相聞候
様万心ヲ附不申知無之儀
等軍之致形不埒ニ付過料銭
三貫文
此儀蒙沼下野守別紙ヲ以申上
蒙相談八沿之例之通
御過料銭三貫文

評議之上無御

揚屋町
地代
八文字屋自休
吉田屋八郎兵衛

從公儀抱女屋之外ニ而
商業いたし候ニ付
右之

右之者共儀去ル戌年隠売女
抱置候ニ付其節きん揚
屋町ニ而いらせ揚屋町より抱女
商売人引請候ニ付方ニ而其
つき加賀屋平助方ニ而きん引
請候ニ付幸ニ而候間商売人ニ相

右之丹波屋嘉兵衛方ニ而抱女きん
引請置抱女御取扱又ニ者吉兵衛
方ニ而差出し候者不届ニ付之
ハ外ニ而召抱商売人差配いたし
申渡置候ニ引渡しおき置候
女之儀ニ付而者右様ニ而候ニ付
抱心之所不申出候儀等閑之致方
不埒ニ付両人共日数二十日宛押込
申付候差添下野守別紙ニ申上相
済候処も有之押込日数之儀

も彼地仕事ニおゐて可為伺之通
二十日究押込
評議之通

寛政十午年御渡　四十番
甲府勤番支配伺
一無宿民蔵盗并牢抜いたし候一件

元榊原小兵衛
当分堀谷文右衛門御
代官所
甲州巨摩郡並宿
宿
問屋
兵助

隠売女いたし候
ものニ無之もの

右之もの儀問屋役ニおゐて勤中
旅人ニ七ヶ所御法度ニ有之隠売女
差置候儀不存旨申候得共儀有之旨答

処心附方不行届不念ニ付拾貫
文之過料
此儀去丑年之御書付をも以
是ハ御定之通可申付旨ニ
候得共御定之過料ニ有之
候而ハ余り間違ニ候ニ付伺之通
料銭拾貫文

評議之通

元御小普請組代官支配
山村堀谷文右衛門
代官支配
甲州巨摩郡並崎
名主
佐左衛門
名主年番ニ付
源右衛門

隠売女いたし候
之不在村役人

右之者之儀名主役ニ而相勤
相勤候内七左衛門御法度之旨隠
し壱女為置候段不届ニ付候
有之所後処心附方不行届不念

ニ付拾貫文之輩
此儀者方ゝ儀有間候事ニ而心
付儀ニ而急度役者杣方ニ付候
ニ而不残も不違万端書出
御ニ元合不得之輩御之貫
文以ゝ

此段ゝ無之

異法を勸候を
不有之数

百七

天保八申年御渡 酉九番
大坂町奉行伺
一異風成法義相勤候一件

大坂四郎ヶ浦御代官不知
摂州東成郡天王
寺村
今道町借家
武兵衛
妻 ゑの
近江屋
静元
庄屋
年寄

異様之法義相行候者共
之儀ニ付庄屋年寄共
存之不及之者共

右之者儀武兵衛借家住宅ニ

於而ハ同家宗旨之儀其風ニ
佛壇を拵人を集仕俗稱ニ法
義抔勤メ金銭之取集方を致
不束之至ニ候依之右勤メ候
教目ニも不及家財取上ケ候事
宗旨之儀吟味不請内病死
候ハヽ此上ハ人数ニ応し咎
定も不仕候ニ付座之者一同叱り
一此儀吟味書ニ認候而も静之
八去ル巳年ニ武ニ蕩れ家貧

宗旨同家ニ而候迄ニ於如静之
居宅ニハ隔有之候哉ニ候
も無之宗旨其風ニ佛
壇を拵人集候ニし而ハ不
相通ニ不念之事ニ無叱り
候処年來右も右様不束
ニ付右三番流ニ至不施候
定書ケ條之通勤ルこの不
致候居ル大吟村方にも
帰依候ニし而を其余ニおゐて

八條村之請場依而被仰付候名
主並料組頭惣代並料ゟ
有之候ニ付見合大場村方ゟの
場依以[illegible]候共年貢差出
右ニ付惣百姓ゟ並料銀三
貫文年賦ニ而差出候旨
評議之上済

寛政八辰年済口八拾三番
堀坂請願相済
一越後国蒲原郡柳村市左衛門外請
相持一件
牧野備前守領分
越後国古志郡石
内村
庄屋
組頭共
村内之者請地
相持之者共之
右之者飯村内外之者共
請地相持飯柳村市左衛門
年貢ニ付越人集メ来候ニ付

百八

其上出入之節ハ役人とも不心得ニ而
宗ニ相成候不埒ニ付庄屋を
過料銭三貫文組頭ハ急度叱り
此儀ニ付仕置證書并一件之
同飯柳村庄屋組頭共より呆
不宜候段申上候得とも出入諸
其節之市右衛門庄屋村役人誠
相勤候処不届之ものとも并
都而右飯柳村庄屋組頭共
不行届方有之庄屋共并組

過之庄屋ハ過料銭三貫文組
頭ハ急度叱り

請證之通

右勘定不附支配不
越後国蒲原郡
飯柳村
庄屋
組頭 共

村内之ものゟ出入諸過
村方ゟ不届村役人

右之もの共儀村内百姓市左
衛門祖父ハ出入諸過村迄困窮

村々大勢之もの共相頼候ニ付
候而も村役人ニ而も不存候
左候ハヽ右場所ニ而糺候ハヽ急度叱り
組頭共叱り

此儀為仕置所書付ニ申上ル
例も不定不紀宗門改勤ハ
年寄日傭を致し止候而致
候而も不存町役人共之内居処
此もの共ハ村内百姓市右衛門
之儀年寄共之勤方ハ

急度ハ而も不及候ハヽ右例ニ而不
不宜三分派不定不絶ニ付
修法を勤ハ之もの村方ニ寄
置ハ名主組頭修法を不
請不致候儀ハ是役儀ニ差上
与有之御定ニ准し市右衛門
之儀法を勤ハ是不及候得共
御座候百姓ハ三料請之事
文組頭ハ過料三貫文

評議之通

国立公文書館
National Archives of Japan